

第 2 章

主 要 施 策 の 概 要

1 子どもが元気に育ち、豊かな人間力を育む環境づくり

1 健康・発育の支援

1 Ⅰ 特定不妊治療費助成事業【計画】（福祉費）

子ども家庭支援課 41百万円

高額な治療費がかかる特定不妊治療について、妊娠を望む夫婦の経済的な負担の軽減を図るため、助成を行いました。

(1) 対象者

東京都特定不妊治療費助成事業の承認決定を受けている区内在住の夫婦

(2) 助成内容

夫婦で行った特定不妊治療（体外受精及び顕微授精）にかかった保険適用外の医療費に対して、東京都の助成金を除いた額に1年度あたり15万円を限度として助成を行いました。

ただし、特定不妊治療に至る過程の一環として行う精巣内精子生検採取法等の保険適用外の医療費に対する認定を受けていた場合は、1年度あたり20万円を限度として助成しました。

2 Ⅱ 保育所等訪問支援事業【計画】（福祉費）

障害者施設課 1.7百万円

子ども発達センター（児童発達支援センター）の職員が保育所や幼稚園を訪問し、発達の遅れがある児童の療育（発達支援）を身近な施設で行うとともに、当該施設の職員等と連携して、療育を実施する体制を整備することにより、発達の遅れがある児童への適切な支援を行いました。

(1) 個別支援

社会性や集団参加が課題となる児童に対して、在籍する園の実際の保育場面において、集団参加等に関する指導を行いました。

(2) 拠点型集団支援

軽度の発達の遅れがある児童に対して、地域ブロックごとに拠点を設け、子ども発達センター職員が保育所等の施設職員と療育を行いました。

3 Ⅲ 妊婦歯科健康診査【計画】（衛生費）

健康づくり課 6百万円

妊娠による身体や生活環境の変化により、妊娠中は歯科疾患が増加することが多く、また、生まれてくる子どもの口腔環境は母親の口腔環境の影響を大きく受けるため、妊婦を対象とした歯科健康診査と保健指導を実施しました。

受診者数 1,027人

4 園子ども・若者育成支援事業（福祉費）

子ども応援課 4. 4百万円

子ども・若者育成支援推進法に基づき、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者を支援する体制を構築します。

30年度は、協議会の運営や計画の策定を行いました。

5 園子どもの支援活動への補助制度の創設【新規】（福祉費）

子ども応援課 4. 1百万円

様々な困難や事情を抱える子ども・若者を支援するため、子ども食堂や学習支援活動等を実施する団体に活動費の一部を助成しました。

- (1) 事業立上げに対する助成 3件
補助率 10/10
助成限度額 20万円
- (2) 活動費に対する助成
 - ①日常的な支援活動 13件
補助率 2/3
助成限度額 月1回以上実施 30万円
週1回以上実施 60万円
 - ②子ども・若者支援等に資するイベント事業 1件
補助率 2/3
助成限度額 60万円

2 子育て環境の充実（11の重要プロジェクト）

1 園保育所の設置【計画】（福祉費）

育成課 823百万円

- (1) おくどスマイル保育園（奥戸五丁目2番1号）
平成31年4月開設、定員102名、社会福祉法人喜清会が運営
保育内容 11時間保育・1時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育・一時保育・子育てひろば
- (2) ほっぺるランド東新小岩（東新小岩六丁目22番7号）
平成31年4月開設、定員90名、株式会社テノ・コーポレーションが運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育
- (3) 木下の保育園青砥（立石六丁目35番14号）
平成31年4月開設、定員78名、株式会社木下の保育が運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育
- (4) 日生金町保育園ひびき（東金町一丁目16番4号）
平成31年4月開設、定員72名、ミアヘルサ株式会社が運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育
- (5) 新小岩さくら保育園 第2（東新小岩一丁目2番11号）
平成30年10月開設、定員19名、特定非営利活動法人J&C Unionが運営
保育内容 11時間保育・産休明け保育・緊急一時保育

- (6) 金町サニーキッズ保育園（東金町二丁目18番1号）
平成31年4月開設、定員19名、Sunny Smile 株式会社が運営
保育内容 11時間保育・1時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育

2 園 保育所の建替え（福祉費）

育成課 110百万円

- (1) 黎明保育園（堀切三丁目30番）
令和元年11月開設予定、定員105名、社会福祉法人雲柱社が運営
保育内容 11時間保育・1時間15分延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・
障害児保育・一時保育
- (2) 東中川保育園（高砂六丁目4番）
令和2年3月開設予定、定員86名、社会福祉法人東中川会が運営
保育内容 11時間保育・1時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・障害児保育・
一時保育・子育てひろば

3 園 「子育て支援施設の整備方針」に基づく施設整備（福祉費）

育成課・保育課 1,010百万円

- (1) 亀が岡りりおっこ保育園（旧亀が岡保育園）（東金町二丁目6番19号）
平成31年4月開設、定員117名
社会福祉法人東中川会が亀が岡りりおっこ保育園として整備・運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・
障害児保育・一時保育・子育てひろば
- (2) 新小岩保育園（新小岩三丁目13番）
令和2年4月開設予定、定員166名（現在の定員152名）
社会福祉法人清遊の家が（仮称）新小岩三丁目保育園として整備・運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・
（予定） 障害児保育・一時保育・子育てひろば
- (3) 東立石保育園（東立石四丁目45番）
令和3年4月開設予定、定員165名（現在の定員153名）
社会福祉法人徳育会が（仮称）東立石四丁目保育園として整備・運営
保育内容 11時間保育・2時間延長保育・産休明け保育・緊急一時保育・
（予定） 障害児保育・一時保育・子育てひろば
- (4) 西亀有保育園（現園舎 西亀有三丁目31番9号、仮園舎予定地 西亀有一丁目18番
※都有地につき都と協議中）
運営者は公募により選定
令和5年4月開設予定、定員未定（現在の定員118名）
保育内容 11時間保育・1時間延長保育・緊急一時保育・障害児保育
（予定）
- (5) 南鎌倉保育園（現園舎 鎌倉二丁目17番4号、新園舎 鎌倉一丁目7番3号）
令和2年1月開設予定、定員86名（令和2年4月以降拡大予定）
区が整備・運営
保育内容 11時間保育・1時間延長保育・緊急一時保育・障害児保育
（予定）
併設施設 （仮称）子ども未来プラザ鎌倉（子育てひろばや子育て相談窓口等）

- (6) 小菅保育園（現園舎 小菅二丁目19番13号、仮園舎 小菅二丁目19番1号）
令和3年度中開設予定、定員未定（現在の定員106名）
区が整備・運営
保育内容 11時間保育・緊急一時保育・障害児保育
（予定）
併設施設 （仮称）子ども未来プラザ小菅（子育てひろばや子育て相談窓口等）
- (7) 梅田保育園（現園舎 立石三丁目26番10号、仮園舎 東立石三丁目3番15号）
平成30年度大規模改修
定員129名
区が整備・運営
保育内容 11時間保育・1時間延長保育・緊急一時保育・障害児保育

4 園通年型預かり保育の実施【計画】【拡大】（福祉費）

子育て支援課 121百万円

私立幼稚園及び認定こども園が実施している預かり保育において、保育時間の延長や3季休業中の保育拡充を行い、小規模保育事業所や家庭的保育事業所に通園する児童の卒園後の受入れ先のひとつとするとともに保育を必要とする方の選択の幅を広げました。

30年度は、新たに定期長時間預かり保育を導入し、さらなる保育拡充を図りました。

3 子育て支援サービスの充実

1 園子育てひろばの設置【計画】（福祉費）

育成課 16百万円

- (1) おくどスマイル保育園（奥戸五丁目2番1号）
平成31年4月開設、社会福祉法人喜清会が運営
- (2) 亀が岡りりおっこ保育園（東金町二丁目6番19号）
平成31年4月開設、社会福祉法人東中川会が運営
- (3) 東中川保育園（高砂六丁目4番）
令和2年3月開設予定、社会福祉法人東中川会が運営
- (4) （仮称）新小岩三丁目保育園（新小岩三丁目13番）
令和2年4月開設予定、社会福祉法人清遊の家が運営

2 園一時保育の設置【計画】（福祉費）

育成課 15百万円

- (1) おくどスマイル保育園（奥戸五丁目2番1号）
平成31年4月開設、定員10名、社会福祉法人喜清会が運営
- (2) 亀が岡りりおっこ保育園（東金町二丁目6番19号）
平成31年4月開設、定員10名、社会福祉法人東中川会が運営
- (3) 東中川保育園（高砂六丁目4番）
令和2年3月開設予定、定員10名、社会福祉法人東中川会が運営
- (4) （仮称）新小岩三丁目保育園（新小岩三丁目13番）
令和2年4月開設予定、定員10名、社会福祉法人清遊の家が運営

3 区 葛飾区版ネウボラ事業【計画】（福祉費）

青戸保健センター・育成課・子ども家庭支援課 101百万円

妊娠や出産、育児に関する不安を解消するため、保健センターや子育て支援拠点施設で妊娠から就学前の子育て期間を通じて切れ目ない相談支援を行うとともに、子育て応援券の配付や保健師などによる妊産婦訪問を行いました。

また、妊産婦とその家族に対して、心身の健康の保持・増進を図るための教室、講座等も実施しました。

4 区 放課後子ども総合プランの推進【計画】（教育費）

放課後支援課 74百万円

学童保育クラブ事業とわくわくチャレンジ広場事業の一体的実施又は連携実施により、児童と一緒にプログラムに参加することができるように取り組みました。

5 三人乗り自転車購入費助成事業【拡大】（福祉費）

育成課 23百万円

子育て世帯の経済的な負担軽減を図るため、前回の購入費助成から3年経過した世帯に対して再び助成を行うとともに、新たに電動アシスト自転車のバッテリーを助成の対象に加え、費用助成を行いました。

4 仕事と生活の調和の推進

1 区 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）応援事業【計画】（総務費）

人権推進課 0.7百万円

区民一人ひとりに対し、それぞれの希望に応じて「仕事」と子育て・介護・地域活動などといった「仕事以外の生活」の調和（ワーク・ライフ・バランス）が図られるよう、区民・企業に向けた支援事業や、各種講座・セミナーの開催等を行いました。

- | | | |
|--------------|------------------------|--------|
| (1) 講座・講演会 | 企業向け講座・講演会 | 1回 |
| | 区民向け講座・講演会 | 2回 |
| (2) 情報提供・啓発 | 産業フェア出展 | 1回 |
| (3) 企業への支援 | ワーク・ライフ・バランス支援アドバイザー派遣 | 1企業 |
| (4) 事業所向け啓発誌 | | 5,600部 |

2 区 男性の家庭生活への参画支援事業【計画】（総務費）

人権推進課 0.1百万円

家事・育児・介護などの多くを女性が担っている現状を踏まえ、男性もこれらを担えるように、必要な知識やノウハウの取得に向け男性を支援する講座等を行いました。

- | | |
|--------------|----|
| 家事・育児・介護参画講座 | 4回 |
|--------------|----|

5 かつしか学力向上プラン（11の重要プロジェクト）

1 **■東京理科大学との連携事業（教育費）**

指導室 50百万円

東京理科大学と連携し、科学教育センター事業や小・中学生を対象とした科学教室及び教員を対象とした理科実技研修を実施し、理科教育の充実を図りました。

また、中学生を対象にした放課後学習教室（寺子屋かつしか）を実施しました。

- (1) 小・中学校科学教室事業（科学教育センター）
対 象 小学6年生と中学2年生
実施回数 65回／年
- (2) 寺子屋かつしか（科学教育センター・亀有学び交流館・新小岩学び交流館）
対 象 主に中学3年生
実施回数 119回／年
- (3) 理科実技研修（科学教育センター）
対 象 小・中学校教員
実施回数 9回／年
- (4) 区民科学教室（科学教育センター）
対 象 区民
実施回数 48回／年

6 教育環境の充実

1 **■葛飾学力伸び伸びプランの推進【計画】（教育費）**

指導室 77百万円

校長が自校の学力の実態に即して策定した学力向上プランを支援し、児童・生徒の基礎学力の定着と向上を図りました。

また、各学校で策定したプランで、より成果が上がり、波及効果の高い取組みを区内の学校に広げました。

2 **■かつしかグローバル人材育成事業（ICTによるイノベーション創出事業）**

【計画】【拡大】（教育費）

学務課・指導室 1,052百万円

社会のグローバル化やデジタル化による技術革新に伴い、「国際競争力」や「経済競争力」のある人材を育成するため、学習者用のICT機器を段階的に導入しました。

30年度は、小学校の児童用タブレットを導入するとともに、小・中学校の特別教室等への無線LAN環境整備を行い、授業におけるICT機器の活用を推進しました。

3 国かつしかグローバル人材育成事業（英語によるコミュニケーション能力育成事業）【計画】【拡大】（教育費）

指導室 78百万円

「英語によるコミュニケーション能力」の育成を計画的に図ることによって、これからのグローバル社会をたくましく生き抜く「豊かな人間力」を育成しました。

30年度は、小学校の外国語科及び外国語活動の先行実施に伴い、ALTの配置時間数の増加等、外国語活動の学習環境を整備しました。

(1) 日光移動教室における体験的外国語活動の実施

小学6年生の日光移動教室にALTが同行し、現地を訪れる外国人に対してインタビューを行うなど、英語で会話をする時間を過ごしました。

(2) 夏季休業中の英語宿泊体験活動の実施

荒川区立清里少年自然の家において、中学1・2年生を対象とした英語だけで生活する研修を行いました。ALTによるアクティビティやレクリエーション等、普段の授業では体験できない機会を過ごし、コミュニケーション能力の向上を図りました。

(3) 葛飾教育の日を活用した「English Day」の実施

ALTを配置した外国語科及び外国語活動の授業公開を行いました。

(4) 中学生海外派遣の実施

ホームステイや現地校への通学等、グローバル人材の育成を図るため、48人の中学2年生を対象とした海外派遣を実施しました。

(5) 中学生英語検定料助成

中学2年生を対象に1回分の英語検定料を助成しました。

(6) 地域英語教材の活用

28年度に開発した、区独自の地域英語教材を活用した授業を実施しました。

※(1)(2)(3)(4)(6)は7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組みに再掲

4 国学校支援総合対策事業（発達障害の可能性のある子どもに対する重層的な支援体制の充実事業）【計画】【拡大】（教育費）

学校施設課・学務課・指導室・学校教育支援担当課 86百万円

発達障害の可能性のある児童・生徒に必要な支援や指導を行うため、全ての区立小・中学校に特別支援教室を設置しました。

また、特別支援教室での指導だけでは学習上又は学校生活上の困難が改善・克服されない児童・生徒を対象とした自閉症・情緒障害特別支援学級（固定学級）を平成31年4月に高砂中学校に設置するための整備を行いました。

5 国学校支援総合対策事業（不登校対策プロジェクト）【計画】（教育費）

指導室・学校教育支援担当課 22百万円

不登校及び不登校傾向にある児童・生徒に対して、不登校になったきっかけや不登校の継続の理由を把握し、学校と協力してその子どもに合う支援を行う「訪問型学校復帰支援」を実施しました。また、総合教育センターで適応指導教室「ふれあいスクール明石」を運営す

るとともに、校内適応教室を小学校1校、中学校1校に設置し、不登校児童・生徒の支援を行いました。

6 国 学校支援総合対策事業（にほんごステップアップ教室等の設置）【計画】

（教育費）

学務課・指導室・学校教育支援担当課 31百万円

来日直後等で、日常の学校生活で使う日本語や生活習慣についての指導が必要な児童・生徒に対して日本語の初期指導を行うため、総合教育センターに「にほんごステップアップ教室」を設置しました。

また、授業に必要な日本語の指導を行う日本語学級を小学校2校、中学校1校に設置し、日本語指導の充実を図りました。

7 国 こども体力向上プロジェクトの推進【計画】（教育費）

指導室 15百万円

子どもたちの基礎体力の向上のため、全校で統一した目標に基づいた「かつしかっ子チャレンジ（体力）」検定を実施し、運動に取り組む機会を作りました。

小学校では、検定のチェックカードを作成し、日常の生活の中で検定を実施するとともに、全ての小・中学校の創意工夫による取組みを推進しました。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて意識の高揚を図りました。小学校では各校の実態に応じた体力向上策等を展開する「葛飾体力伸び伸びプラン」を実施するとともに、中学校においては「トップアスリート派遣事業」の取組み等の充実を図りました。

※7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組みに再掲

8 国 学校施設の改築【計画】（教育費）

学校施設課・学校施設整備担当課・学務課 1,527百万円

適切な学習環境を確保できるよう、学校規模の適正化や老朽化の状況などを踏まえ、地域バランスを考慮しながら学校改築を進めています。

30年度は、学校改築・改修を進めている6校のうち、東金町小学校、本田中学校の改築・改修に伴う工事に着手したほか、高砂けやき学園高砂小学校・高砂中学校、西小菅小学校の改築・改修に向けた基本・実施設計に取り組みました。

また、小松中学校では、引き続き新校舎建設工事を行いました。

（1）改築校

小松中学校、東金町小学校、高砂けやき学園高砂小学校・高砂中学校

（2）一部改築・改修校

本田中学校、西小菅小学校

9 ㊦ 学校地域応援団の推進【計画】（教育費）

地域教育課 14百万円

学校ごとに、学校運営を支援する「学校地域応援団」を設置し、児童・生徒の学習支援や教育環境の整備、安全活動などに、地域が学校に協力して取り組みました。

また、これらの学校には、その支援活動の企画や運営を協議する「地域教育協議会」を設置しました。

30年度は、72校（71応援団）で実施しました。

10 ㊦ 学校施設の長寿命化計画策定事業（教育費）

学校施設課 7百万円

「公共施設等経営基本方針」を受けて、既存の「葛飾区有建築物保全工事計画」や「葛飾区立学校の改築に向けた指針」と整合性を図りながら、より良い教育環境を確保しつつ、学校施設を適正に整備するため、今後の基本的な整備方針を定める「学校施設長寿命化計画」を策定しました。

11 ㊦ 科学教育センター（未来わくわく館）の改修事業【新規】（教育費）

指導室 3.9百万円

科学教育センターの開設から5年が経過し、展示物が老朽化しているため、展示物の入替え及び修繕を行うことで、施設の魅力を向上し、子どもたちが理科教育を身近に感じられるように改修を進めています。

30年度は、改修に向けた設計を行いました。

12 ㊦ かつしか教育情報化推進プラン策定事業【新規】（教育費）

指導室 13百万円

教育の情報化を推進していくために、学校の授業におけるICT活用の推進やICT環境の最適化、情報セキュリティ対策などの現状や課題を抽出し、今後の方向性を具体的に定めた「かつしか教育情報化推進プラン」を策定しました。

2 健康でともに支えあい、いきいき暮らせる地域社会づくり

1 区内医療環境の充実（11の重要プロジェクト）

1 区 葛飾赤十字産院の移転建替え（総務費）

政策企画課 1. 4百万円

葛飾赤十字産院の移転建替えに向けて、新宿図書センター及び道路補修課旧庁舎の解体を進めました。

また、移転用地の賃貸借契約の締結に向けた準備や葛飾赤十字産院内に併設する図書館について、葛飾赤十字産院及び関係部署と協議・調整を行いました。

2 健康づくりの推進

1 区 区民健康づくり支援【計画】（衛生費）

地域保健課・健康づくり課・青戸保健センター 9百万円

区民が自らの健康を意識し、健康づくりに取り組むきっかけ作りをしました。

健康に関する情報に触れ、健康づくりを行う機会が増えるよう、健康に関する講義からお笑い健康講座など様々な分野の催しや、区内公共施設や大型商業施設などにおけるまちかど健康相談を行いました。

また、健康習慣の定着を促進するため、健診や健康づくり事業、健康講座等への参加やウォーキング、体操等の参加者が自主的に立てた健康目標の実行によりマイルを貯めると抽選により健康関連グッズ等が当たる「かつしか健幸マイレージ事業」を実施しました。

さらに、食事や運動を通じて健康づくりが実践できるよう、活動量計やスマートフォンを使い、運動量や体重の自己管理を行う参加型の健康づくりプログラムとして、「かつしか健康チャレンジ事業」を実施しました。

2 区 グループ健康づくり支援【計画】（衛生費）

健康づくり課・青戸保健センター 1. 1百万円

健康づくりの担い手である健康づくり推進員を中心とするグループや、その他の自主グループの健康づくり活動を支援しました。

健康講座を開催したほか、出張健康チェックの実施、健康課題に関する資料やパンフレットの提供、区のイベントにおけるグループ活動の紹介などを行いました。

3 区 長寿歯科健康診査【計画】（衛生費）

健康づくり課 1. 2百万円

40歳から70歳まで5歳刻みの成人歯科健康診査につなげる形で、75歳の高齢者を対象に歯科健診と口腔機能のチェックを行い、歯と口腔の健康づくりを進めました。

（1）歯科健康診査等の実施

歯科健康診査とあわせて口腔機能のチェックを実施し、健診結果に基づいた治療勧奨や保健指導を行いました。

- 受診者数 1,029人
(2) 口腔機能維持のためのフォロー教室

長寿歯科健康診査受診者及び公募による65歳以上の区民を対象に、歯科医師による講習会を実施しました。「食べる」「話す」に不可欠な口腔機能を維持していくことの大切さを認識してもらい、自らが歯や口の健康増進に取り組んでいけるようにフォロー教室を開催しました。

4 国 かつしか糖尿病アクションプランの推進【計画】（衛生費）

健康づくり課 5百万円

区内医療関係者の糖尿病診療の標準化や連携体制の強化を図るため、糖尿病対策推進会議や予防推進医療者講習会を開催しました。

また、糖尿病の予防から療養指導までに関する正しい知識を普及啓発するため、イベントの開催やリーフレットの配布を行うとともに、糖尿病の発症や重症化を予防するため、未受診や治療の中断を防止するためのサポートを引き続き実施しました。

5 国 かつしかの元気食堂推進事業【計画】（衛生費）

健康づくり課 6百万円

外食の食環境を、健康づくりという観点からより一層整備するため、栄養バランスの整った食事と健康情報の提供を行う「かつしかの元気がでる食堂」と、健康的な食事の量や味付けなどが選択できる「わたしの街のえらべる食堂」、野菜不足を補うことができるメニューのある「プラス一皿の野菜提供があるお店」を「かつしかの元気食堂」として認定し、PRすることで認定店の拡大を図りました。

6 国 自殺対策事業【計画】【拡大】（衛生費）

保健予防課 3.5百万円

自殺予防について、正しい知識を普及するために、講演会の実施やリーフレットの作成・配布等による啓発を行いました。

また、自殺の危険がある人に気付き、話を丁寧に聴いて必要な相談窓口に確実につなぐことができる人材を育成するため、職員等を対象にゲートキーパー研修を実施しました。

30年度は、令和元年度の自殺対策計画の策定に向け、「自殺対策連絡協議会」を設置し、総合的な自殺対策の推進を図りました。

7 国 骨髄移植ドナー支援事業【新規】（衛生費）

健康づくり課 0.1百万円

骨髄・末梢血幹細胞提供者の経済的負担の軽減を図り、移植及びドナー登録の拡大を推進するため、提供者と提供者が勤務する事業所に対し、助成金を交付する支援事業を開始しました。

助成額	提供者	20,000円/日
	事業所	10,000円/日
支給限度日数		7日間

3 地域包括ケアシステムの推進

1 Ⅲ 認知症対策の強化【計画】 【拡大】（福祉費・介護保険事業特別会計）

地域包括ケア担当課 8百万円

認知症高齢者や家族が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるような体制の構築に取り組みました。

(1) 認知症普及啓発事業

認知症への正しい理解をより多くの方に広めるため、啓発イベントを実施したほか、他のイベント等の機会を活用した普及啓発を図りました。

(2) 認知症サポーター養成講座

区民、事業者、ボランティア団体、小・中学生などを対象に講座を開催して認知症に関する基礎知識や認知症の方への接し方を学んで、地域で見守りができる方を増やしました。

(3) もの忘れ相談会

①実施場所 高齢者総合相談センターなど

②事業概要 医師会の認知症サポート医等が、最近もの忘れが気になる方や認知症の相談をしたい方などの悩みに応じました。

※2-3-2 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）の機能強化に別途計上

(4) もの忘れ予防健診

①対象者 68歳から72歳までの区民 28,559人

うち、一次健診受診者数 2,034人

二次健診受診者数 612人

②事業概要 区からももの忘れ予防健診受診券を送付し、区内受託医療機関で、医師による問診と簡易な検査を実施し、認知症の疑いのある高齢者を早期に発見し、支援しました。

(5) 認知症初期集中支援チームの設置[新規]

医療・介護の専門職が、認知症の方等を早期に訪問し、必要な医療・介護の導入、調整や家族支援などの初期支援を行いました。

2 Ⅲ 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）の機能強化【計画】

（介護保険事業特別会計）

地域包括ケア担当課 445百万円

家族や地域住民等から相談を受けるだけでなく、積極的に戸別訪問等を実施し、ひとり暮らし高齢者の孤立化防止や認知症高齢者の早期発見・早期対応を図るなど、地域における高齢者の生活を支援しました。

また、施設入所者等を除く75歳を迎える方全員を対象に実施する戸別訪問では、不在者への再訪問を強化し、社会的孤立や認知症等の疑いがある高齢者の早期発見・早期対応を推進しました。

30年度は、水元出張相談窓口に代えて高齢者総合相談センター水元公園を整備し、センターが14か所となりました。

3 Ⅲ 地域包括ケアシステムの推進【計画】

(福祉費・衛生費・介護保険事業特別会計)

高齢者支援課・地域包括ケア担当課・地域保健課 77百万円

団塊の世代が75歳を迎える2025年に向けて、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるように、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援の各サービスが切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の実現に取り組んでいます。

- (1) 高齢者総合相談センターを中心とした事業の実施
 - ①在宅介護・療養相談窓口(14か所)の運営
 - ②認知症カフェの運営・立ち上げ支援、認知症高齢者の早期発見に向けた支援強化
 - ③生活支援体制整備事業の実施
- (2) 地域包括ケアシステム推進事業の実施
 - ①在宅療養に関する区民向けセミナーの開催
 - ②在宅療養や介護予防に関する普及啓発(在宅療養かわら版・シニア活動マップの作成及び在宅療養ガイドブックの配布)
- (3) 在宅医療・療養ネットワークの推進

高齢者やその家族が安心して在宅療養生活を送るために、切れ目のない療養支援サービスを提供しました。

 - ①医療連携相談員の設置
 - ②多職種間の連携強化(在宅医療介護連携推進会議の開催)
 - ③在宅療養患者・高齢者搬送支援事業の継続

4 Ⅲ 介護予防・生活支援サービス(住民主体サービス)【新規】

(介護保険事業特別会計)

地域包括ケア担当課 42百万円

地域での介護予防活動が活発化するよう、介護予防の要素を含んだ活動をする団体(ミニ・デイサービス、高齢者等サロン)の運営を支援しました。

ミニ・デイサービス	13か所
高齢者等サロン	19か所

4 介護予防事業の充実

1 Ⅲ 区民と取り組む介護予防事業【計画】(介護保険事業特別会計)

高齢者支援課 7百万円

区民の幅広い参加が期待される介護予防事業について、地域のリーダーを養成するとともに、地域のリーダーを中心に自主的に取り組む団体を支援し、区民と協働して推進しました。

- (1) 筋力向上・脳力(のうちから)トレーニング事業及び回想法教室事業

身体機能や認知機能の向上に効果が見込まれる筋力向上トレーニングなどを実施して、地域のリーダーを新たに57人養成し、351人になりました。また、トレーニング等に取り組む地域の団体を支援しました。

(2) うんどう教室事業

公園内に設置した、つまづいたり、ふらついたりすることを予防するための専用の運動器具を使用し、うんどう教室及び地域指導員養成等を行いました。

①うんどう教室

対 象 等 おおむね65歳以上、定員40人程度
実施場所 高砂北公園・お花茶屋公園・間栗公園・東金町四丁目平成公園・青戸平和公園
実施回数 月2回（青戸平和公園は月1回）
参加者数 延べ1,716人

②地域指導員実践教育

対 象 等 地域指導員養成講座修了者、定員20人程度
実施場所 青戸平和公園
実施回数 月1回（2年間）
参加者数 延べ197人

③地域指導員スキルアップ講座

対 象 等 地域指導員実践教育修了者、定員20人程度
実施場所 高砂北公園・お花茶屋公園・間栗公園・東金町四丁目平成公園
実施回数 年4回（東金町四丁目平成公園は年2回）
参加者数 延べ96人

2 Ⅲ 介護予防チャレンジ事業【計画】（福祉費）

高齢者支援課・地域包括ケア担当課 7百万円

身体機能の維持や認知症予防に効果のある介護予防教室やシニア版ポニースクールを開催するとともに、フィットネスクラブと協働して運動習慣推進プラチナ・フィットネス事業を行い、介護予防に取り組む高齢者を増やしました。

(1) 介護予防教室事業

レクササイズ、音楽療法、音楽'd e脳トレ、笑いヨガ、ポールウォーキング、大人の塗り絵、健美操、まちかどエクササイズ、スポーツボイスフィットネスを実施し、486人の参加がありました。

(2) 運動習慣推進プラチナ・フィットネス事業

高齢者が要支援・要介護状態になることを予防し、住み慣れた地域で自立した生活を送れるように、フィットネスクラブの運動プログラムの中から、体力や興味にあわせたプログラムへの参加を支援しました。専門インストラクターが利用者に対して運動の指導・助言を行うとともに運動が習慣化されるように働きかけることで、運動の継続性を確保しました。

①対 象 者 要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の区民
②実施場所 区内に施設を有する9か所のフィットネスクラブ
③参加者数 428人

(3) シニア版ポニースクール事業

ポニースクールかつしかにおいて、介護予防に関する講話のほか、ポニーの乗馬や餌やり、手入れなどを行いました。足腰のトレーニングや正しい姿勢の保持につなげることで、介護予防への意欲を高めました。

①対 象 者 要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の区民
②参加者数 延べ157人

5 介護・福祉サービスの充実

1 区特別養護老人ホームの整備支援【計画】（福祉費）

福祉管理課 73百万円

優先度が高いと判定されている区民ができるだけ早く入所できるよう、特別養護老人ホームの整備を計画する社会福祉法人に対して、施設整備費の一部を助成し、整備を促進しました。

- (1) (仮称) ケアホーム葛飾 (小菅一丁目35番)
令和2年2月開設予定・定員120人
併設施設 短期入所生活介護 (ショートステイ) 定員18人
社会福祉法人平成記念会が運営
- (2) (仮称) 癒しの里西亀有 (西亀有三丁目18番)
令和2年8月開設予定・定員120人
併設施設 短期入所生活介護 (ショートステイ) 定員20人
社会福祉法人三幸福社会が運営

2 区定期巡回・随時対応型訪問介護看護の整備支援 (定期巡回・随時対応サービス)

【計画】（福祉費）

福祉管理課 11百万円

高齢者が中重度の要介護状態になっても、住み慣れた地域で自立した生活を営めるように居宅生活を支えていくため、日中・夜間を通じて、訪問介護と訪問看護の両方を、定期巡回と随時の対応 (相談のみの場合を含む) で行う、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の整備を計画する事業者に対して、施設整備費の一部を助成し、整備を促進しました。

日生定期巡回サービス東新小岩 (東新小岩四丁目11番10号)
平成30年10月開設
ミアヘルサ株式会社が運営

6 障害者の自立生活支援

1 区障害者就労訓練システムの整備【計画】（福祉費）

障害福祉課 47百万円

18歳以上の勤労意欲のある障害者に対して、就労支援プランに基づき、企業実習、作業訓練等を行うとともに、就労に向けての経験を積む場として、区が期限を設けて障害者を雇用する「葛飾区チャレンジ雇用」を実施することにより、一般企業への就労を支援しました。

また、一般就労した後も、働き続けることができるよう、障害の特性にあわせて、職場定着支援と余暇・生活支援を行いました。

- (1) チャレンジ雇用
知的障害者、精神障害者を区の臨時職員として雇用し、個別支援プログラムに基づいた仕事を通じて経験や技術を高めるとともに、定期的な就職活動を行うことにより、一般就労に結びつけていきました。

(2) 利用者工賃向上推進事業

障害者通所施設に対して、販売計画や目標工賃、施設の特色を生かした企画立案のための経営コンサルタントの派遣費用やその具体的な取組みに要する経費を助成し、利用者工賃の向上を図りました。

(3) 就労訓練、職場定着支援

職場開拓、ジョブコーチ支援及び就労後の定着支援のために、就労支援専門員を8人配置しました。

また、民間通所施設や企業内の通所訓練施設に対する就労支援指導員に係る経費の助成や、就労しようとする障害者に対して雇用の安定を確保し就労への不安をなくすため、民間通所施設に就労支援助成金を支給する就労助成事業などを引き続き実施しました。

7 低所得者の支援

1 Ⅲ生活困窮者自立支援事業【計画】（福祉費）

福祉管理課 171百万円

生活保護に至る前の段階の自立支援策の強化を図るため、生活困窮者からの就労をはじめとする複合的な相談に応じるとともに、一人ひとりの状況に応じた自立支援計画を策定し、関係機関とともに計画的かつ継続的な支援を実施しました。

30年度は、学習支援事業について、教育委員会と連携して指導方法や教材等のアドバイスを行うなど、さらなる学力の向上を図りました。

8 地域の支えあいの推進

1 Ⅲ成年後見事業の拡充【計画】（福祉費）

福祉管理課・高齢者支援課・障害福祉課 33百万円

成年後見制度に関する総合的な取組みを進めるとともに、市民後見人の養成講座を実施し、身近な支援者としての養成と活用を進めました。

(1) 区長申立制度、成年後見制度の利用支援

成年後見制度を利用することが有用であると認められる高齢者や障害者で、成年後見の申立てをする方がいない場合は、区長が成年後見の申立てを行いました。

また、後見人等報酬費用について助成を受けなければ制度の利用が困難な方にその費用の全部または一部を助成しました。

区長申立件数 高齢者 42件、障害者 9件

後見人等報酬費用助成件数 高齢者 23件、障害者 0件

(2) 成年後見センターの運営

葛飾区社会福祉協議会内に設置した「葛飾区成年後見センター」で、成年後見制度に関する相談や支援、普及・啓発、法人後見の受任などを行いました。

また、成年後見制度のしくみなど必要な知識・技能・倫理を修得して後見人等の業務を適正に行うための講座を開催し、3人が受講を修了しました。

30年度は、2人の市民後見人が家庭裁判所から選任されました。

9 スポーツによる元気なまちづくり（11の重要プロジェクト）

1 **【計画】（教育費）**

生涯スポーツ課 12百万円

高齢者が自主的・積極的に安心してスポーツを行うことができる環境整備として、地域で定期的に体力測定会を行うとともに、健康体操プログラムの提供や体組成計を活用した体力テスト測定会を行いました。

また、手軽に取り組めるスポーツプログラムを普及推進していくほか、葛飾区スポーツ指導員のさらなる活用を図りました。

30年度は、ランニングステーション事業を新たに実施しました。

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| (1) 高齢者推奨スポーツ | グラウンド・ゴルフ、ダーツ、バウンドテニス |
| (2) 区民健康体力テスト測定会 | 7地域 年14回 計615人 |
| (3) ウォーキングイベント | 年1回 318人 |
| (4) ランニングステーション事業 | |

2 **【計画】（教育費）**

生涯スポーツ課 5百万円

障害者が自主的に安心してスポーツ活動に取り組めるよう葛飾区ボッチャ協会を設立し、協会を支える人材として障害者スポーツ指導員の育成を図りました。

また、パラリンピック公式種目であるボッチャ競技や、スペシャルオリンピック公式種目であるフロアホッケーの交流競技大会を行うなど、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の気運醸成とパラリンピック競技の認知度向上を図るとともに、ユニバーサルスポーツの普及促進を図りました。

- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| (1) 障害者水泳教室 | 年22回 計336人
(専用レーン 年20回 計70人) |
| (2) 障害者スポーツ教室 | 年24回 計471人 |
| (3) 障害者スポーツ指導員養成・活用 | 講義6科目・実技5科目 認定11人 |
| (4) ボッチャ交流大会 | 年1回 105人 |
| (5) ボッチャ教室 | 年5回 計51人 |
| (6) ボッチャ体験 | 全38日 計406人 |
| (7) フロアホッケー交流競技大会 | 年1回 計253人 |
- ※7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組みに再掲

3 **【計画】（教育費）**

生涯スポーツ課 11百万円

かつしか地域スポーツクラブが地域スポーツの担い手として重要な役割を果たし、さらなる育成と活動の充実を図れるよう、地域におけるスポーツ環境を整備しました。

また、地域の課題解決も視野に入れて、地域住民が主体的に取り組むスポーツを通したコミュニティ拠点として、充実・発展していくことを促進しました。

- (1) 学校と地域スポーツの連携強化
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会も視野に入れつつ、トランポリン等、学校の部活動にない種目をプログラム設定しました。

また、学校教育活動にアスリート等の指導員を派遣しました。

(2) 民間団体とのスポーツ協働事業

民間企業やスポーツ団体との協働によるスポーツイベントを開催しました。

※(1)は7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組みに再掲

4 区民健康スポーツ参加促進事業【計画】(教育費)

生涯スポーツ課 7百万円

(一社)葛飾区体育協会と協働して、39の加盟団体スポーツ種目を中心に、高齢者・障害者・ジュニア層・親子など、あらゆる人を対象として、運動経験の少ない方や初心者向けのスポーツ教室、体験会などの事業を実施しました。

※7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組みに再掲

5 キャプテン翼CUPかつしかの開催【計画】(教育費)

生涯スポーツ課 24百万円

葛飾区の体育施設を会場として、青少年の健全育成と地域活性化を目的に少年サッカー大会「キャプテン翼CUPかつしか」を開催しました。

大会の開催を通じて“キャプテン翼ゆかりのまち葛飾”“サッカーのまち葛飾”をPRするとともに、キャプテン翼ゆかりの自治体と連携することで、葛飾区の魅力、地方の魅力を全国に発信し、地域活性化と自治体間の交流を深めました。

(1) 実施時期 平成31年1月12日(土)・13日(日)

(2) 会場 奥戸総合スポーツセンター陸上競技場
水元総合スポーツセンター多目的広場

(3) 出場チーム キャプテン翼ゆかりの地、関東近郊の強豪チーム

6 スポーツ施設の利用しやすい環境整備【計画】(教育費)

生涯スポーツ課 671百万円

ウォーキング・ランニングコースの新設に向けた準備、計画的なスポーツ施設の改修等、安全で快適にスポーツができる環境を整備します。

30年度は、奥戸総合スポーツセンター体育館大・小体育室の天井張替改修に向けた設計などを行いました。

(1) 奥戸総合スポーツセンター改修

陸上競技場大規模改修工事を行いました。また、体育館大・小体育室天井張替改修及びテニスコート人工芝改修の設計を行いました。

(2) 東金町運動場多目的広場人工芝充填剤入替

多目的広場の人工芝充填剤入替工事を行いました。

(3) 渋江公園・上千葉公園テニスコート照明改修

テニスコート照明の改修工事を行いました。

(4) ウォーキング・ランニングコース整備

第3コースの距離測定を行いました。

※7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組みに再掲

7 国かつしかふれあいRUNフェスタ2019の開催（教育費）

生涯スポーツ課 25百万円

子どもから高齢者まで幅広い層の区民が、個人や家族、仲間同士でランナーやスタッフ、応援者など、様々な形でイベントに参加できる機会を確保し、スポーツ実施率の向上や健康増進をはじめ、多世代の交流や地域の交流などが促進されるスポーツイベントとして「かつしかふれあいRUNフェスタ2019」を開催しました。

(1) 開催日 平成31年3月10日（日）

(2) 内 容

堀切水辺公園（スタート・ゴール）～荒川河川敷

①ふれあい健康RUN 1～5キロ

エントリー数 2,906人（出走者数 2,492人）

②チャレンジRUN 10キロ・ハーフ

エントリー数 4,210人（出走者数 3,565人）

10 生涯学習事業の推進

1 国かつしか区民大学事業の推進【計画】【拡大】（教育費）

生涯学習課 9百万円

「かつしか区民大学」では、区が企画する講座、大学などの教育機関との連携・協働講座、さらには区民や団体が企画する講座として、30年度は102講座を実施し、多様な学習の場として、区民の自己実現を支援しました。

また、「かつしか郷土かるた」については、全区競技大会や原画展を開催するなど継続的な普及・活用を図りました。

2 国郷土と天文の博物館展示事業の充実及びプラネタリウムの改修等

【計画】【拡大】（教育費）

生涯学習課 245百万円

博物館ボランティアや区民との協働を進めながら、区民ニーズを考慮した新たな「テーマ」や「切り口」で、特別展・企画展など様々な展示を実施するとともに、全国的に評価の高いプラネタリウムも、さらにクオリティの高い番組をより良い環境で楽しめるようにします。

これらの取組みを通じて、郷土かつしかと天文に対する関心を高めるとともに理解を深め、区民に愛され誇りとされる、何度も訪れたい博物館にしていきます。

30年度は、特別企画展示室での展示を4回実施するとともに、プラネタリウムの投影システムやスクリーン、座席等を更新し、あわせて天文展示室の改修を行いました。また、特別企画展示室の改修工事として、老朽化した壁紙や展示ケース、カーペット等を更新し、令和元年10月から令和2年6月にかけて改修を行う郷土展示室の改修設計を行いました。

1.1 図書館サービスの充実

1 ④ 図書返却ポスト及び図書サービスカウンターの設置【計画】【拡大】（教育費）

中央図書館 26百万円

図書館で借りた図書を図書館以外で返却できる「図書返却ポスト」を四ツ木駅前に、図書館サービスの一部が利用できる「図書サービスカウンター」をリリオ亀有リリオ館7階に設置しました。また、平成31年4月1日に「図書返却ポスト」を京成高砂駅前に開設するための整備を行いました。

- | | |
|-----------------|--|
| (1) 図書返却ポスト | 新小岩駅東北広場、堀切地区センター、
新柴又駅前、青砥駅高架下公共広場、
四ツ木駅前、京成高砂駅前（平成31年4月1日開設） |
| (2) 図書サービスカウンター | リリオ亀有リリオ館 7階 |

3 住み続けたいと思える、安全・安心なまちづくり

1 減災協働プロジェクト（11の重要プロジェクト）

1 Ⅲ 民間建築物耐震診断・改修助成【計画】（総務費）

建築課 432百万円

地震時の建物被害や建物倒壊による道路閉塞を防止するため、木造住宅等に対して、耐震診断・耐震改修設計・耐震改修工事等に要する費用の一部を助成しました。また、耐震化促進普及啓発活動等を実施しました。

- (1) 木造建築物耐震化助成
診断412件、設計31件、改修23件、建替え150件、除却185件
- (2) 非木造建築物耐震化助成
マンション設計1件
- (3) 特定緊急輸送道路沿道の建築物耐震化助成
設計1件
- (4) 耐震シェルター助成0件
- (5) 耐震アドバイザー無料派遣0回
- (6) 耐震化促進普及啓発のための説明会及び相談会の開催20回
- (7) 葛飾区建築設計事務所協会による相談・受付を実施100日

2 Ⅲ 地盤の液状化対策【計画】【拡大】（総務費）

建築課 6百万円

地盤の液状化による住宅の被害を軽減させるため、窓口相談や説明会において区民向けの液状化パンフレット等を活用して情報提供を行いました。

また、建築敷地の地盤状況を把握し、必要に応じて対策の実施を促進するために、住宅の新築や建替えの際に地盤調査費や液状化対策費の一部助成等を行いました。

なお、地盤調査費の助成額を35万円に拡充し、液状化対策費の助成対象を木造3階建て住宅に拡充しました。

- (1) 液状化対策説明会及び相談会の開催20回
耐震化促進普及啓発のための説明会と同時開催
- (2) 地盤調査費助成
助成件数12件
- (3) 液状化対策費助成
助成件数1件

3 Ⅲ 水害対策の強化【計画】（総務費）

危機管理課 9百万円

江東5区広域避難推進協議会における検討や近隣自治体との相互協力体制の構築など、広域避難対策を進めました。また、身近な避難場所を確保するための中高層建築物へ避難できるしくみづくりを推進しました。

4 国 学校避難所の防災機能の強化【計画】（総務費）

地域防災課 34百万円

災害時の断水に備えて、避難所となる小・中学校に仮設トイレ用マンホールの整備を行うとともに、その水利を確保するため、井戸の整備を行いました。

5 国 防災の意識啓発【計画】【拡大】（総務費）

地域防災課 3.3百万円

防災対策は、自らの命は自らで守る「自助」が基本となり、共助・公助は自助が前提となり成り立ちます。自助の意識付けをするために、幅広い層を対象とした防災講演会やワークショップを実施して、防災の意識啓発を図ります。

30年度は、若年層を含む多くの区民が防災に関心をもてるよう、放水体験やゲーム形式の防災訓練等の防災普及イベントを実施するとともに、VRを活用した避難体験を行いました。

6 国 地域別地域防災会議の設置【計画】（総務費）

地域防災課 11百万円

地域の防災資源を活用して、地震や水害などの災害にどう立ち向かっていくかを地域住民が主体となって検討する会議体を地域ごとに設置していきます。その会議の中で、自治町会、消防団、PTA、企業等による地域ぐるみの防災ネットワーク（地域内協定）を構築し、地域防災力の強化を図るとともに、地域の特性を踏まえた各地域の防災マニュアルを策定しました。

7 国 街づくりの担い手育成・支援【計画】（都市整備費）

都市計画担当課・街づくり推進課 2.4百万円

区民と協働のまちづくりを進めるため、都市復興まちづくり模擬訓練の実施により、まちづくりを担う人材やまちづくり組織の育成に取り組みました。

8 災害対策本部の強化【拡大】（総務費）

危機管理課 33百万円

北海道胆振東部地震で発生したブラックアウトを教訓に、大規模停電時においても災害対策本部の活動に必要な電力を供給できるよう、太陽光発電のソーラーパネルを活用した蓄電池などを整備し、災害対策本部の強化を図りました。

また、首都直下地震などの大規模災害において区民の生命・身体・財産を守るため、災害対策本部が防災関係機関と連携し、迅速かつ効果的に応急・復旧活動を行うことができるよう、実働訓練を実施しました。

（1）災害対策本部用非常用電源の整備

災害対策本部の初動対応で重要となる72時間の電源を確保できるよう、既設のソーラーパネルを活用した蓄電池などを導入しました。

（2）総合防災訓練の実施

江戸川河川事務所・警察・消防などと合同で地震発生時に対応する訓練を行いました。

30年度は、通常の訓練に加え道路等の交通網が寸断されたとの想定で、江戸川を自衛隊による仮設浮橋で結び帰宅困難者訓練を初めて実施したほか、船舶や水陸両用車による人員・物資輸送を行いました。

① 日時

平成30年10月14日（日） 午前9時～正午

② 主な参加団体

柴又、高砂、鎌倉、金町周辺自治町会、防災関係機関、他自治体

③ 場所

柴又公園ほか

2 災害に強いまちづくり

1 区四つ木地区の街づくり【計画】（都市整備費）

密集地域整備担当課・住環境整備課 259百万円

密集住宅市街地整備促進事業により、主要生活道路や災害時に一時的に避難できる公園・小広場などの整備、細街路の拡幅、老朽化した住宅の建替えなどを促進し、地区計画とともに、災害に強い街づくりを進めています。

30年度は、地区内の主要生活道路の設計を行いました。また、木造住宅の建替え助成制度を活用して、地区内の不燃化を推進しました。

2 区東四つ木地区の街づくり【計画】（都市整備費）

密集地域整備担当課・住環境整備課 198百万円

密集住宅市街地整備促進事業により、主要生活道路や災害時に一時的に避難できる公園・小広場などの整備、細街路の拡幅、老朽化した住宅の建替えなどを促進し、地区計画とともに、災害に強い街づくりを進めています。

30年度は、地区内の主要生活道路の整備を行いました。また、木造住宅の建替え助成制度を活用して、地区内の不燃化を推進しました。

3 区東立石地区の街づくり【計画】（都市整備費）

密集地域整備担当課・住環境整備課 764百万円

密集住宅市街地整備促進事業により、主要生活道路や災害時に一時的に避難できる小広場などの整備、細街路の拡幅、老朽化した住宅の建替えなどを促進し、地区計画とともに、災害に強い街づくりを進めています。

30年度は、地区内の主要生活道路の設計を行いました。また、木造住宅の建替え助成制度を活用して、地区内の不燃化を推進しました。

4 区堀切地区の街づくり【計画】（都市整備費）

街づくり推進課・密集地域整備担当課・住環境整備課 119百万円

堀切地区のめざすべき街の将来像である「堀切地区まちづくり構想」や「まちづくり戦略

(案)」をもとに、地域のまちづくり推進協議会と協働し、橋梁架替事業と連携した街づくりの検討を進めています。

また、密集住宅市街地整備促進事業により、主要生活道路や災害時に一時的に避難できる小広場などの整備、細街路の拡幅、老朽化した住宅の建替えなどを促進し、地区計画とともに、災害に強い街づくりを進めています。

30年度は、まちづくり推進協議会への活動支援を行うとともに、堀切菖蒲園駅周辺における「まちづくり戦略(案)」の具体化に向けた検討を行いました。

また、堀切二丁目周辺及び四丁目地区については、木造住宅の建替え助成制度を活用して、地区内の不燃化を推進しました。

5 区細街路拡幅整備事業【計画】(都市整備費)

住環境整備課 253百万円

住環境の向上を図るとともに地域の防災性を高めるため、建築物の建替えに際して、幅員の狭い道路を4メートルに拡幅整備しました。

また、建築予定がない場合でも、関係権利者の協力により拡幅可能な箇所を整備しました。

個別方式 195件 2,017m

6 区新小岩公園防災高台整備事業【計画】(総務費)

公園課 0百万円

「新小岩公園防災高台整備事業」は、様々な課題があることから見直しを行い、他の事業手法の検討や公園利用者により配慮した防災機能強化を図ることにしました。

新小岩公園の防災機能強化の推進にあたっては、日常的な施設の利用や災害時の機能強化について、区民との意見交換を十分に行いながら進めていきます。

7 区空家等対策の推進(都市整備費)

住環境整備課 29百万円

適切な管理が行われていない空家等が災害、衛生、景観等の地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼさぬよう、権利者と相談するとともに、空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき、各種調査や指導等を実施しました。

(1) 空家等対策協議会の開催

①開催回数 6回(協議会 3回、専門部会 3回)

②協議内容 区の空家等対策の重要事項に関すること など

(2) 空家等対策講演会の開催

空家等の所有者向け講演会を開催しました。

(3) 空家等現地調査

空家の老朽度や周辺への影響を確認するため、専門家とともに立入調査を行いました。

(4) 空家等実態調査

区内の空家等の分布・特性等を整理し、空家等対策の基礎データを収集しました。

8 ㊦ 防災活動拠点の整備【計画】（総務費）

地域防災課・公園課 67百万円

地域防災計画に掲げた減災目標（被害の半減）を達成するため、国の補助制度を活用し、防災活動拠点として、公園に井戸、防災倉庫、仮設トイレ用マンホール、かまど兼用炊き出しベンチ等の設備を設け、救出・救助活動や生活支援活動等を行う防災市民組織による自主防災活動の場として防災活動拠点を整備しています。

30年度は、奥戸四丁目落公園、東新小岩二丁目かがやき公園及び青戸七丁目共和公園の整備を行いました。

9 ㊦ 学校避難所の自主運営の強化【計画】（総務費）

地域防災課 2.0百万円

避難所開設前の初動活動や開設後の運営を円滑に進めるため、学校避難所の運営会議や訓練を充実させることにより、避難する住民自らが避難所を開設し運営していく自主運営意識を高め、より実践的な避難所運営をめざし、3年に1度は開催できるよう避難所運営会議を含めた支援を行いました。

10 ㊦ 情報連絡体制の強化【計画】【拡大】（総務費）

危機管理課 35百万円

防災システムや高所カメラを活用し、区内の被災情報や備蓄状況等を一元的に管理し、情報連絡体制の強化を行いました。

30年度は、地域系防災行政無線をIP無線に入れ換えるとともに、災害時に備え、防災システム等の運用を図りました。

11 ㊦ 防災計画推進事業（総務費）

危機管理課 3.5百万円

「葛飾区業務継続計画（BCP）」を基に、災害時、他自治体や協定団体などからの応援を円滑に受け入れる体制を整えるための「葛飾区災害時受援計画」を策定しました。

3 生活安全対策の推進

1 ㊦ 地域安全活動支援事業【計画】（総務費）

地域防災課・生活安全課 61百万円

犯罪や事故の発生を減らし区民の安全を守るため、関係団体との連携を図りながら、区民・地域への啓発・情報提供、各種犯罪の被害防止、地域で行われる自主活動や防犯設備の整備に対する支援などを推進し、安全な地域社会の形成に取り組みました。

2 Ⅲ 通学路防犯カメラ設備整備事業（教育費）

教育総務課 23百万円

地域の安全、子どもの安全に対する取組みを強化するため、小学校24校の通学路に防犯カメラをそれぞれ5台ずつ設置しました。

前年度に設置したものとあわせると、区内全小学校の通学路にそれぞれ5台ずつ、合計245台の稼働体制となりました。

3 Ⅲ 消費者対策推進事業【計画】（産業経済費）

産業経済課 29百万円

区民が自立した消費者として行動できるよう、消費者問題に取り組んでいる団体の活動を支援するとともに、消費者情報の提供、消費者講座等の学習機会の確保、消費生活相談の実施など、様々な取組みを推進しました。

30年度は、はがきによる架空請求詐欺の被害が急増しました。区民の被害を未然に防ぐため、広報紙やHP等の媒体を活用した注意喚起をはじめ、チラシの配布やパネルの作成を行い、啓発に取り組みました。

また、葛飾区消費生活対策アクションプログラムにより、消費者教育の一層の推進を図るため、出前教室や出前寄席などの充実を図りました。

4 Ⅲ 患者相談窓口の運営【計画】【拡大】（衛生費）

生活衛生課 2.1百万円

専用電話で患者やその家族等からの医療に関する相談や苦情を受け、患者等と医療機関の相互理解を促進しました。

また、実施状況を医療機関に提供していくことにより、安心できる医療への取組みを推進しました。

30年度は、受付時間を延長して実施しました。

相談受付時間等 月曜日～金曜日、午前9時～午後5時

5 Ⅲ 配偶者暴力防止事業【計画】（総務費）

人権推進課 3.2百万円

あらゆる暴力の防止に向けて、社会全体で取り組めるよう、配偶者等からの暴力の防止及び被害者保護に関するパンフレットの作成・配布や講演会等を実施し、区民の意識向上を図りました。

また、男女平等推進センター（配偶者暴力相談支援センター）では、DV被害者支援を行いました。

(1) 女性に対する暴力相談（DV相談）の実施

①実施場所 男女平等推進センター

②実施回数 92回（週2日）

(2) DV防止・啓発事業

①DV予防啓発クリアファイルの作成

②講座・講演会実施 3回

4 葛飾の良さを活かした、魅力と活力あふれるまちづくり

1 魅力ある観光まちづくり（11の重要プロジェクト）

1 国寅さん記念館・山田洋次ミュージアムのリニューアル【計画】【拡大】

（産業経済費）

観光課 317百万円

「寅さん記念館」及び「山田洋次ミュージアム」の新たな来館者やリピーターを獲得するため、大規模なリニューアルを行いました。

リニューアル内容としては、寅さん記念館に新たな映像演出を加えるとともに、山田洋次ミュージアムを寅さん記念館側の棟に集約・拡充し、さらに、エントランスエリアの刷新及びTORAsan cafeの新設を行いました。

2 国かつしか観光推進事業【計画】（産業経済費）

観光課 105百万円

（1）『こち亀』を活用した観光振興策

①『こち亀』バスラッピング広告

京成タウンバスが運行する亀有駅～浅草寿町間の路線バス1台にラッピング広告を継続し、『こち亀』ゆかりの地「葛飾」「亀有」をPRしました。

②着ぐるみを活用したPR

「両さん」「中川」「麗子」のキャラクター着ぐるみを活用して、亀有地区の賑わいを創出しました。

（2）『キャプテン翼』を活用した観光振興策

①『キャプテン翼』ゆかりの地「京成立石駅」でのPR

『キャプテン翼』ゆかりの地をデザインした看板を京成立石駅南口に継続して設置し、作品の魅力を活かした観光PRを進めました。

②『キャプテン翼』バスラッピング広告

京成タウンバスが運行する亀有駅～新小岩駅東北広場間、新小岩駅東北広場～市川駅間の路線バス及び東京都交通局が運行する金町駅～浅草寿町～上野松坂屋前間の路線バス各1台にラッピング広告を継続し、『キャプテン翼』ゆかりの地「葛飾」「四つ木・立石」をPRしました。

③『キャプテン翼』モバイルスタンプラリー参加者へのボンフィン配付及び銅像めぐりマップの作成

モバイルスタンプラリーへの参加と四つ木・立石地域の回遊を促すため、30年度は、参加者に対して、『キャプテン翼』オリジナルボンフィンを配付するとともに、日本語版と英語版の銅像めぐりマップを作成しました。

④『キャプテン翼』ペナントを活用したPR

京成電鉄（株）が実施した京成四ツ木駅『キャプテン翼』特別装飾にあわせて、まいうろど四つ木商店街振興組合の街路灯に『キャプテン翼』ペナントを設置し、『キャプテン翼』ゆかりの地をPRしました。

（3）『モンチッチ』を活用した観光振興策

①『モンチッチ』バスラッピング広告

京成タウンバスが運行する新小岩駅東北広場～亀有駅間及び新小岩駅東北広場～市川駅間の路線バス2台にラッピング広告を継続し、『モンチッチ』に会えるまち「葛飾」「新小岩」をPRしました。

②地域イベント

JR新小岩駅周辺で実施する東北ひろばまつりにおいて『モンチッチ』を活かしてさらなる盛り上がりを創出しました。30年度は、モンチッチ公認レーシングドライバー吉岡一成さんにもお越しいたいただき、『モンチッチ』のイラストが入ったレーシングカーを展示し、さらに『モンチッチ』、吉岡さんとの記念撮影会を実施しました。

(4) 『リカちゃん』バスラッピング広告

京成バスが運行する亀有駅～新小岩駅東北広場間の路線バス2台にラッピング広告を継続して運行しました。

(5) 菖蒲めぐりバスの運行

菖蒲まつり期間中の土・日曜日に、堀切菖蒲園、水元公園、柴又等区内観光スポットを結ぶラッピングバス3台を運行しました。

(6) フィルムコミッション事業

映画、ドラマなどのロケーションの誘致、撮影に関する相談や立会いなどを行うとともに、ロケ地マップを作成し、撮影を支援した作品を活用して区の魅力を国内外へ発信しました。

(7) 広域観光プロモーション事業

①東京駅前観光案内所等での情報発信

東京駅前のTIC東京、東京シティアイといった圧倒的な集客力を誇る民間の観光案内所等において、国内外の観光客に向けて区の観光情報を発信しました。観光パンフレットの配布やポスターの掲出、観光PR用DVDの放映などによる区の魅力の紹介や多言語対応コンシェルジュによる観光案内を行いました。

②新小岩駅～浅草線バスラッピング広告

京成タウンバスが運行する新小岩駅東北広場～浅草寿町間の路線バス1台にラッピング広告を継続し、葛飾区の観光地やイベントをPRしました。

③押上駅観光案内

乗降客の多い押上駅構内の広告媒体にポスターを掲出し、葛飾区の魅力をPRしました。

④観光見本市への出展

平成30年9月に開催された日本旅行業協会・日本観光振興協会・日本政府観光局主催による「ツーリズムEXPOジャパン2018」へ出展しました。来場者へ葛飾区のPRを行うとともに、企業や他自治体との情報・意見交換を行い、今後の観光事業に活かす情報発信、収集を行いました。

⑤訪日外国人観光PR

訪日外国人観光客を葛飾区に誘致するため、外国人に発信力のあるWebサイトへの葛飾区ページの開設や、SNS上での動画配信を行い、国内及び海外の両面からPRを展開しました。

(8) 葛飾産品アンテナショップ事業

柴又駅前の観光案内所において、観光情報の提供や区内で生産された工業製品等のPR及び販売を行い、観光客へ葛飾区の魅力を発信しました。

(9) おいでよ亀有事業

亀有地域へのさらなる観光客の誘客と、まちのにぎわい創出を図るため、自治町会や商店会等との協働により、亀有駅前等でイルミネーションの装飾や集客イベント等を実施しました。

(10) ライティング・コラボレーションかなまち事業

金町地域で、自治町会や商店会等と協働し、イルミネーションの装飾及び地方と連携

したマーケット等を実施し、まち全体の賑わいを創出しました。

※(7)⑤は7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組みに再掲

3 圃寅さんサミット【計画】（産業経済費）

観光課 20百万円

「日本の原風景を守り、後世に伝える」をテーマに、映画『男はつらいよ』のロケ地と『寅さん』の故郷である「葛飾・柴又」をつなぐイベントを葛飾区観光協会やその他関係機関、各ロケ地との協働により開催しました。

30年度は、11月3日と4日の2日間開催し、全国のロケ地15地域との交流を深める場を創出し、各地域が大切にしている日本の原風景の価値や魅力を発信するとともに、「葛飾・柴又」のPRと誘客を図りました。

4 圃観光資源づくり事業【計画】【拡大】（産業経済費）

観光課 54百万円

(1) かつしか観光大使事業

葛飾区にゆかりのある著名人を「かつしか観光大使」に任命し、区の魅力を積極的に区内外に発信することにより、区のイメージアップ及び観光振興へと結びつけました。

30年度は、かつしか観光大使・川畑 要さんのイベント「下町SOUL」の中で、かつしか観光大使によるトークショー等を実施しました。また、新たな観光大使として立石出身の吉田照美さんを任命しました。

(2) 『リカちゃん』を活用した観光振興策

リカちゃんラッピングバス1台の座席シートや天井などの車内をリカちゃんのデザインで装飾し、完成を記念したお披露目イベントを実施しました。

(3) 文化的景観を活用した観光振興策

都内初の重要文化的景観に選定された葛飾柴又の認知度を高め、誘客を図りました。

①プロモーション動画の配信

柴又の魅力を広く国内外に伝えるためのプロモーション動画を配信しました。

②ガイドマップやパンフレットの配布

柴又の歴史的・文化的魅力を味わいながらまち歩きをゆっくり楽しめるガイドマップや、柴又歩きの楽しみだけで終わらず、帰宅しても楽しめる、写真集や読み物としての要素を加えたパンフレットを制作・配布しました。

③月刊『東京人 増刊号特集 葛飾柴又を楽しむ本』の制作

読者へ柴又や葛飾区に興味・関心を抱かせ、誘客を図る冊子を制作しました。また、区民と協働で冊子を制作することで、柴又の知識・誇りを一層深めました。

④重要文化的景観選定記念イベントの実施

「葛飾柴又の文化的景観」の重要な構成要素である柴又帝釈天境内において、ライトアップ及びプロジェクションマッピングの投影を行うとともに、自治町会や商店会、観光協会等との協働により、柴又界隈をめぐるスタンプラリーを実施しました。

(4) 亀有地域観光拠点調査の実施

葛飾区及び亀有を国内外に広く発信し、さらなる観光客の誘客を図るため、亀有地域における新しい観光拠点を創出するための調査を実施しました。

2 人情味あふれる地域づくり

1 圃ふるさと葛飾盆まつり（総務費）

地域振興課 32百万円

昔から葛飾の人々の結びつきを強めてきた盆踊りをメインとしたまつりを地域との協働で開催しました。多くの区民に親しまれている盆踊りを通じて、区民同士の連帯感やふるさと葛飾への愛着心をさらに深めてもらうとともに葛飾の魅力を内外に広く発信しました。

開催日	平成30年9月2日（日）
場所	葛飾にいじゅくみらい公園
内容	輪踊り、練り歩き、盆踊りコンテスト、地域コンサート等
来場者数	約21,000人

3 花いっぱいのもちづくり（11の重要プロジェクト）

1 圃緑と花のもちづくり事業【計画】（環境費）

環境課 48百万円

区民の自主的な活動により区内に緑と花を一層広めるような取組みを積極的に展開します。

30年度は、花いっぱいのもちづくり活動を「花いっぱいでおもてなし」として東京2020公認プログラムに申請し、活動の活性化を進めました。

(1) 「かつしか花いっぱいのもちづくり推進協議会」の運営

活動団体、事業者、緑化推進協力員、区で構成する「かつしか花いっぱいのもちづくり推進協議会」を運営し、区民と区の協働による花いっぱいのもちづくりを推進しました。

(2) 花いっぱいホームページの運営

27年度に開設した専用ホームページを引き続き活用し、花いっぱいレポーターとの協働により、活動団体相互の意見交換や活動状況のPRを行いました。

(3) 地域緑化の推進

①活動団体への支援

地域の人々の目に触れる公開性のある場所で緑と花を育てる活動を行う団体に花苗、種、球根などの配付や園芸用具の貸与を行い、その活動を支援しました。

②緑花生活の推進

環境・緑化フェアなどのイベントで、区民へ花苗の配布を行うとともに、園芸教室などの開催により区民の緑化意識の向上を図りました。

また、「葛飾区緑化推進協力員会」との協働による花と緑のはがきコンクールや「かつしか花いっぱいのもちづくり推進協議会」との協働により花いっぱいの花壇コンクールを開催しました。

(4) 公共空間への展開

東京都の「花の都プロジェクト」に採択されたフラワーメリーゴーランドの実証試験を引き続き区民と協働し、駅前広場周辺で実施しました。

※7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組みに再掲

4 産業の活性化

1 圃 葛飾ブランド創出支援事業【計画】（産業経済費）

商工振興課 7百万円

区内製造業が開発した優良製品等3件を「葛飾ブランド」として認定し、それらの製品等の持つエピソードを基にした「町工場物語」を作成・配布するとともに、展示会への出展、専用ホームページによるPRなどを行いました。

また、平成30年8月にこれまでの認定製品も含めた葛飾ブランドの展示販売会を東京駅隣接のKITTEのパフォーマンスゾーンで開催しました。

2 圃 東京理科大学との産学公連携推進事業【計画】（産業経済費）

商工振興課 8百万円

区内企業と東京理科大学との間で産学公連携体制を構築し、大学の有する先端的な研究機能と葛飾の町工場が得意とする製造・加工技術との連携交流を推進しました。

(1) 共同開発事業への助成

共同開発にかかる経費について2件助成し、新製品・新技術開発事業を支援しました。

(2) 専属コーディネーターの配置

区内事業者と東京理科大学との企業技術のマッチングを行うために専属コーディネーターを配置し、区内企業に対するPRや相談、大学研究室に関する情報収集を行い、新製品・新技術開発などを推進・支援しました。（区・商工会議所・大学の3者で費用を負担）

(3) 産学交流イベントの実施

交流イベントの一環として、東京理科大学で研究室見学会や、少人数参加型講座等を実施しました。

(4) 産学公連携推進協議会の運営

大学、区内企業・金融機関、区等で構成する協議会で産学公連携事業の方向性等を検討しました。

3 圃 区内産業人材育成支援事業【計画】（産業経済費）

商工振興課 0.1百万円

区内企業が技術・技能・知識等の習得を目的として実施する人材育成事業4件について、その経費の一部を助成しました。

4 圃 産業見本市開催事業【計画】（産業経済費）

商工振興課 34百万円

多種にわたる区内製造業を集め、区内外の発注企業との商談の機会の充実を図り、ものづくりのまち「かつしか」の優れた技術を発信する「町工場見本市2019」を開催しました。東京国際フォーラムにおいて、平成31年2月19日と20日の2日間開催し、79社が出展しました。

5 園 伝統産業販路拡大支援事業【計画】（産業経済費）

商工振興課 0.8百万円

区内の伝統工芸士で組織する団体が、自ら製作した伝統工芸品を区外で展示及び販売する催しの開催や、参加するための経費の一部について1件助成しました。これにより、葛飾区の伝統工芸品を広く周知し、多くの消費者にその製品の良さを認識する機会を確保しました。

6 園 伝統工芸職人弟子入り支援事業（産業経済費）

商工振興課 1.5百万円

後継者が不足している伝統工芸職人を対象に全国から弟子候補を募り、親方と弟子候補とのマッチングを図り、仮弟子としての見習い期間3か月、正式弟子としての修行期間9か月に対する指導・育成料、給与、生活費の経費支援を行いました。

7 園 フードフェスタ【計画】（産業経済費）

商工振興課 2.8百万円

葛飾区商店街連合会、葛飾区観光協会、葛飾区食品衛生協会、東京商工会議所葛飾支部と区の協働により、「かつしかフードフェスタ2018」を平成30年11月17日と18日の2日間、新小岩公園で開催し、47店が出展しました。区内外に葛飾区の「食文化」の魅力を広く発信することで、区内に数多くある飲食業等を支援するとともに、区内商店街の活性化と新たな観光資源の創出を図りました。

8 園 創業支援事業【計画】（産業経済費）

産業経済課 2.6百万円

区と関係機関・団体が協働し、区内で創業をめざす方に、創業前から創業後の経営安定まで、情報やノウハウの提供、資金融資、人材確保について一貫した支援を行いました。

30年度は、創業の基礎を学べる創業塾を7期間開催し、総勢118名が受講しました。

また、創業者間や創業者・応援者が交流する「地域クラウド交流会」を2回開催し、総勢361名が参加しました。

9 園 事業承継支援事業【新規】（産業経済費）

産業経済課 2.8百万円

地域産業の技術を継承し、地域雇用を確保していくため、区内中小企業を対象に情報やノウハウの提供、資金融資により事業承継の支援を行いました。

30年度は、若手経営者や後継者を対象とした「かつしか経営塾」を新規に開催し、13名が受講しました。

10 区商店街元気・活気向上支援事業【計画】（産業経済費）

商工振興課 0百万円

地域商店街の活性化を図るため、地域ブランドの創出など他の商店街のモデルとなる新規事業に対して、都と区を合わせて対象経費の5/6を助成する助成制度を周知しましたが、30年度は申請がありませんでした。

11 区「まちあそび人生ゲーム in 葛飾」の実施支援【新規】（産業経済費）

商工振興課 5百万円

商店街のPRや新規顧客の開拓など商店街の活性化を図るため、タカラトミーと協働・連携事業として行う「まちあそび人生ゲーム in 葛飾」の実施について支援を行いました。

12 区公衆浴場ガス化等支援事業【計画】（産業経済費）

商工振興課 0百万円

公衆浴場設備の新規ガス化等クリーンエネルギーへの転換や既設ガス燃料設備の更新を支援することで、浴場運営の負担を軽減し、経営の継続及びCO2の排出削減など、環境負荷の低減を図りましたが、30年度は申請がありませんでした。

13 区農業体験農園支援事業【計画】（産業経済費）

産業経済課 0.8百万円

区民が余暇活動として農業と農地に触れ親しむ機会を確保するとともに、区民の都市農業に対する理解を深め、都市農地を保全するため、新たな農業経営手法として、農家の指導により利用者が種まきから収穫までを体験する農業体験農園を開園する区内農家に対して、施設整備費や管理運営費の一部を助成しました。

施設整備費助成 1件、管理運営費助成 2件

14 区葛飾区農地保全支援事業（産業経済費）

産業経済課 9百万円

葛飾区の農地の多面的機能の発揮を図るとともに農業・農地への区民の理解を深めるため、都市農地・農業に係る冊子を作成し、PRを行いました。

また、農地保全のため、農業者向けに都市農地に関わる制度の説明会を開催しました。

防災兼用農業用井戸整備費等助成 14件

PR冊子作成 2.5万部

説明会 3回

15 国雇用・就業マッチング支援事業【計画】（産業経済費）

産業経済課 32百万円

区民のキャリアアップと就労を支援するため、専門職員が、区内及び近隣の企業を訪問し、求人情報の収集や人材確保の相談を行うとともに、収集した求人情報を区民に紹介し、就労を支援しました。

また、求職者に対して個別カウンセリングや適職診断を実施し、適切な職業の紹介を行いました。

さらに、葛飾の産業の次代を担う人材確保のため、セミナーや相談会等を開催し、若者や女性の就職を支援しました。

求職登録者 523人、採用決定者 321人

16 国プレミアム付商品券発行事業費助成【拡大】（産業経済費）

商工振興課 82百万円

葛飾区商店街連合会が発行するプレミアム付商品券の事業費の一部を助成することで、区内商業の活性化につなげました。

30年度は、発行総数を増やして実施しました。

(1) 発行総額

451,000,000円(11,000円×41,000セット)

(2) プレミアム率

10%

5 文化芸術活動・多文化共生社会の推進

1 国文化芸術創造のまちかつしか推進事業【計画】（総務費）

文化国際課 20百万円

多くの区民に文化芸術活動への参加機会を提供するため、区民ニーズや地域の特性を踏まえた区民参加型の事業として、かつしかオリジナル作品公募事業や公募型文化芸術事業を実施しました。

(1) かつしかオリジナル作品公募事業

29年度に脚本化した第3回かつしか文学賞大賞作品「天のこと」を舞台化し、リリオホールにおいて7月28日、29日の2日間、3公演を行いました。

(2) 公募型文化芸術事業（地域コンサート）

地域の文化・芸術活動の活性化に貢献する個性的・創造性あふれる音楽イベントを広く公募し、12地域で実施しました。

※4-5-3ウィーン市フロリズドルフ区友好都市交流「柴又フロリズ通りフェスティバル」に一部再掲

2 国多文化共生社会の推進【計画】（総務費）

文化国際課 15百万円

外国人区民にとっても暮らしやすい地域となるように、生活に役立つ情報の提供や各種

文化紹介講座・交流イベント等の開催、民間国際交流団体に対する事業助成やボランティア活動に対する支援を行いました。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、外国人観光客の増加に関連した取組みを進めるとともに、友好都市や姉妹都市をはじめとする外国都市との交流を深めました。

※英語・中国語によるおもてなしガイド講座の実施は7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組みに再掲

※民間国際交流団体に対する事業助成は4-5-3ウィーン市フロリズドルフ区友好都市交流「柴又フロリズ通りフェスティバル」に一部再掲

3 Ⅲ ウィーン市フロリズドルフ区友好都市交流「柴又フロリズ通りフェスティバル」【新規】（総務費）（再掲）

文化国際課 0.8百万円

葛飾区、フロリズドルフ区両区民の友好の証である柴又の「フロリズ通り」を会場とし、地元団体が行う模擬店や演奏などによるイベントに対して助成等を行いました。

2019年に日澳友好150周年を迎えるという好機をとらえて、区内外に両区の交流をPRし、友好の絆を深めました。

開催日 平成30年5月20日（日）

会場 柴又4-32先（フロリズ通りフロリズ花壇周辺）

4 Ⅲ 文化会館の修繕・改修【新規】（総務費）

文化国際課 44百万円

建物竣工から27年が経過し、様々な部位や設備に劣化や交換部品の製造停止等が見られるようになっていく中で、利用者の利便性の向上、安全性の向上、施設の機能維持、省エネ・低コスト設備への転換を図る改修を令和2年度末から3年度にかけて行います。

30年度は、改修工事に向け調査を行うとともに、施設内を管理するためのカメラ・モニター等の更新を行いました。

6 活力あるまちづくりの推進

1 Ⅲ 無電柱化の推進【計画】【拡大】（都市整備費）

都市計画担当課・道路建設課 44百万円

都市防災機能を強化するとともに、安全で快適な歩行空間及び良好な都市景観を創出するために、沿道地域住民や関係権利者の理解を得ながら、主要観光地周辺や主要駅周辺の区道の無電柱化を推進します。

30年度は、東京都の無電柱化チャレンジ支援事業制度を活用して「無電柱化推進計画（案）」を策定するとともに、葛104号線（柴又駅付近）の電線共同溝整備に向けた事前準備工事を行いました。

2 圃 新小岩駅周辺開発事業【計画】（都市整備費）

新小岩街づくり担当課 1, 868百万円

新小岩駅周辺地区の都市基盤、環境整備を図るため、南北自由通路整備や各地区の具体的な事業化の検討を行うとともに、地域住民と協働して駅周辺の一体的なまちづくりを推進しています。

30年度は、引き続き、新小岩駅南北自由通路の整備を行いました。（平成30年6月24日暫定開通）

また、「新小岩駅周辺地区街づくり基本計画」を実現するため、地区の特性に合った事業化の検討等を行いました。

3 圃 金町駅周辺の街づくり【計画】（都市整備費）

金町街づくり担当課 462百万円

金町駅南口について、金町六丁目駅前地区の市街地再開発事業に対する支援を行うとともに、駅北口周辺地区については、周辺の道路や駅前広場の基盤整備等により交通結節点機能の向上と新たな賑わいの創出などを図り、広域複合拠点としての都市機能の充実をめざします。

30年度は、再開発組合が行う解体工事、本体工事に係る費用に対して助成を行いました。

また、駅北口周辺地区については、基盤整備計画案の推進に向けた検討等を行いました。

4 圃 立石駅周辺地区再開発事業【計画】（都市整備費）

立石駅北街づくり担当課・立石駅南街づくり担当課 81百万円

立石駅周辺地区の市街地再開発事業に対する支援を行い、市街地の防災性向上とともに、地域に根差した生活サービス機能と、公益サービス、交流・交通機能を充実し、区の中心部にふさわしい街並み形成を図ります。

30年度は、北口地区において、再開発組合設立に向けた準備組合活動を支援しました。

南口地区では、再開発事業に係る合意形成等の準備組合活動を支援しました。

検討区域全体面積 4.5ha

（北口地区2.2ha・南口地区2.3ha）

5 圃 高砂駅周辺の街づくり【計画】（都市整備費）

高砂・鉄道立体担当課 21百万円

高砂駅周辺の交通利便性や安全性・防災性を向上させ、魅力と活力ある広域生活拠点を形成するため、地元住民による街づくり勉強会への支援等を行い、鉄道立体化と一体となった街づくりを推進しています。

30年度は、連続立体交差事業化の推進に必要な都市計画の検討、地元の街づくり活動支援などを行いました。

6 区 青戸六・七丁目地区の街づくり【計画】（都市整備費）

街づくり推進課・公園課 225百万円

地区計画制度により、道路や公園の整備を行い、地区内交通の円滑化など、安全、快適で利便性の高い、地域の特性を活かした街づくりを推進しています。

30年度は、区画道路1号の拡幅整備を行ったほか、地区内の青戸七丁目共和公園の整備等を行いました。

7 区 都市計画道路の整備【計画】（都市整備費）

道路建設課 2,816百万円

安全で円滑な交通機能を確保するとともに、良好な道路環境を整備するため、沿道地域住民や権利者の理解を得ながら、都市計画道路の整備を着実に推進しました。

事業中路線

補助261号線（南水元）

補助264号線（細田西・環七付近）

補助274号線（立石）

補助276号線（大堰杵南・一口橋南・細田北・隅田橋）

補助279号線（隅田橋）

補助284号線（東新小岩南・東新小岩北）

区画街路4号線（四つ木東・四つ木西）

8 区 新中川橋梁架替事業【計画】（都市整備費）

道路補修課 126百万円

完成から50年以上が経過した八剣橋・細田橋・高砂諏訪橋の架け替え事業を実施し、歩行者・自転車の通行の安全性や防災性の向上、また、維持管理費の軽減を図ります。

30年度は、引き続き八剣橋の旧人道橋及び車道橋の撤去工事を行いました。

9 区 公共交通網の調査検討（都市整備費）

交通計画担当課 28百万円

高齢社会の進展など、社会状況の変化に対応し、区民の移動の更なる利便性の向上に向けて、今後の本区の公共交通網の整備方針とその取り組みについて検討し、その成果を「葛飾区公共交通網整備方針」としてとりまとめました。

また、新金貨物線の旅客化については、需要予測や事業性の試算などの検討を行い、その結果をとりまとめました。

10 区 京成押上線連続立体交差事業【計画】（都市整備費）

立石駅北街づくり担当課 2,089百万円

京成押上線（四ツ木駅～青砥駅間）連続立体交差事業は、鉄道を高架化し踏切を除却す

ることにより、交通渋滞の解消、道路交通の安全確保、分断された地域の一体化を図ります。

30年度は、東京都及び京成電鉄(株)と連携して、立石駅前区間の用地取得を完了させるとともに、一般区間の工事に取り組むなど事業の推進を図りました。

1.1 国 地下鉄8・11号線及び環七高速鉄道(メトロセブン)建設促進事業【計画】 (都市整備費)

交通計画担当課 1.5百万円

地下鉄8号線・11号線の延伸、メトロセブンの建設促進に向けて、関係区市や都区連絡会とともに協議会や勉強会を実施し、連携強化を図りました。

1.2 国 バス交通の充実【計画】(都市整備費)

交通計画担当課 2.3百万円

バス交通の充実に向けて、バス事業者と連携し、バスの乗り継ぎ負担の軽減につながる利便施設整備に対する助成等を行いました。

(1) 利便施設整備費助成

バスの乗り継ぎ負担の軽減につながるバスロケーションシステムやバス停留所上屋の整備を行ったバス事業者に対し、整備費の一部を助成しました。

- ・バスロケーションシステム 一式
- ・バスロケーションシステム表示機 17基
- ・バス停留所上屋 3基

(2) バス利用環境向上整備

バス交通の利便性向上及び利用促進を図るため、バス停留所付近にバス利用者用自転車駐輪場を2箇所設置しました。

- ・大場川水門バス利用者用駐輪場
- ・水元五丁目バス利用者用駐輪場

(3) 区内バス路線図の印刷

バス路線変更などに伴い、既存の区内バス路線図を最新情報に編集・印刷し、窓口で配布しました。

- ・印刷部数 1,350部

1.3 国 自転車総合対策事業の推進(都市整備費)

交通安全対策担当課・道路補修課 1.15百万円

本区の地形が平坦であることや、最近の自転車利用のニーズを踏まえて、安全で快適な自転車利用環境を創出するため、自転車ナビマークの整備や放置自転車対策、安全教室の実施などハード面とソフト面をあわせた事業を推進しました。

(1) 放置自転車総合対策事業

放置自転車の指導・誘導、撤去・搬送及び保管所管理運営業務を総合して一括委託等を行うことで、駅周辺の放置自転車対策の強化を図りました。

(2) 自転車交通安全教室の実施

区内の中学生等を対象としたスクエアード・ストレイト方式による自転車交通安全教

室を開催し、交通ルールマナーを守ることの大切さを知らせました。

(3) 自転車ナビマークの設置

路面に「自転車ナビマーク」を設置し、自転車の走行区分を明確にすることで、交通事故の減少につなげていきます。

30年度は、金町駅周辺や高砂橋などに設置しました。

1.4 園 自治町会との協働による地域力の向上【新規】（総務費）

地域振興課 2. 5百万円

地域課題解決の核となって活動する自治町会の意義や魅力について、あらゆる世代に関心をもってもらうため、自治町会の魅力向上を図りました。また、様々な機会を捉えて加入促進に取り組むとともに、自治町会の魅力を発信しました。

(1) 転入者向けリーフレット等の作成

転入者の町会加入を促進するため、町会加入のメリットなどを記載したリーフレットを作成し、平成30年11月より加入希望のはがき等とともにクリアファイルに入れて窓口等で配付しました。

24,000部

(2) 地域の支えあい活動への支援

地域の支えあい活動に主体的に取り組んでいる又は取り組もうとしている自治町会に対し、活動を継続・充実する上での課題を明確化しながら、区は、協働のパートナーとして様々な支援を行います。

30年度はモデル事業として2つの自治町会にコンサルタント等を派遣し、課題解決に向けての支援を行いました。

(3) 地区まつり助成の拡充

地域の連携を深めるため新たなプログラムの導入等を行う地区まつりに対し、導入等に係る経費の3分の2を限度に助成しました。

新規実施 1地区連合町会

5 区民とともに築く、人にやさしく住みよいまちづくり

1 水と緑にふれあう快適空間の創出

1 園地域の核となる公園の整備【計画】（都市整備費）

公園課 220百万円

- (1) 東立石緑地公園（東立石四丁目6番10号）
拡張部において、園路等の整備を行いました。
- (2) 奥戸四丁目落公園（奥戸四丁目14番19号）
防災活動拠点としてオープン（平成30年11月）しました。
- (3) 飯塚なかよし公園（西水元一丁目25番1号）
改修工事を行い、公園としてリニューアルオープン（平成31年3月）しました。
- (4) 東新小岩二丁目かがやき公園（東新小岩二丁目15番1号）
防災活動拠点としてオープン（平成31年3月）しました。
- (5) 鎌倉公園（鎌倉三丁目16・21・22番）
再整備に向けて実施設計を進めました。
- (6) 小菅東スポーツ公園（小菅三丁目1番1号）
再整備に向けて基本設計・実施設計を進めました。

2 園水辺のネットワーク事業【計画】（都市整備費）

道路補修課・公園課 48百万円

親しみの持てる水辺空間を創出するため、水辺のネットワークを整備しています。
30年度は、水元さくら堤の改修工事等を行いました。

3 園河川環境改善事業（都市整備費）

公園課 55百万円

水元小合溜で実施している浄化対策についての課題を整理し、維持管理費用等の削減を視野に入れながら、新たな水質浄化対策を行っています。また異常繁殖した水生植物（ヒシ類など）の改善を図るため、生態系のバランスを考慮したうえで、水域からの適度な除却を行っています。

30年度は、河川環境改善基本設計・実施設計等を実施しました。

2 ユニバーサルデザインの推進

1 園歩道勾配改善事業【計画】（都市整備費）

道路補修課 53百万円

歩道の改善が必要な道路（計画延長約20km）について、段差や勾配等を改善し、平坦性を確保することにより、高齢者や障害者、車いす利用者等、誰もが安全で快適に通行できる道路環境を整備しました。

30年度は、東堀切三丁目整備工事などを行いました。

整備延長 約150m

2 国 鉄道駅エレベーター等整備費助成事業【計画】（都市整備費）

調整課 110百万円

すべての人が安心して安全に移動できるまちづくりを実現するため、鉄道事業者が区内鉄道駅において、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）」に基づくエレベーター、ホームドア等の整備に要する経費の助成を行います。

30年度は、JR新小岩駅総武快速線のホームドア整備経費について助成を行い、使用を開始しました。

3 国 公共サインの再構築【計画】（総務費）

政策企画課 134百万円

区内に点在する多種多様な公共サインについて、葛飾区公共サインガイドラインにおける統一的なルールやデザインに準拠し、利用者にとって使いやすいものへ再構築します。

30年度は、堀切（堀切菖蒲園駅北側）エリア、高砂・柴又エリア、水元エリアの公共サインを整備しました。

※7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組みに再掲

3 再生可能エネルギーの創出（11の重要プロジェクト）

1 国 再生可能エネルギーの利用促進【計画】【拡大】（環境費）

環境課 55百万円

区民・事業者に対するかつしかエコ助成による支援（太陽光発電などの再生可能エネルギーシステムの導入費助成）を行うなど再生可能エネルギーの利用を促進しました。

（1）かつしかエコ助成による支援

①太陽光発電システム設置費助成（蓄電池併設の場合は5万円上乘せ）

住宅用（集合住宅を含む） 137件、蓄電池併設 107件

②ゼロエネルギーハウス（ZEH）支援事業助成

住宅用 3件

（2）廃食用油再生利用促進事業

家庭で使用済みの食用油を、大気中のCO₂を増加させないバイオディーゼル燃料として再生利用するため、廃食用油の回収を行い、地球温暖化防止とともに資源循環の地域づくりを推進しました。

また、引き続きバイオディーゼル燃料仕様に改良した公用車を活用し、普及啓発を図りました。

回収場所 公共施設21か所

（3）環境学習事業

東京2020参画プログラムとして、地元小学校児童が組み立てた太陽光発電パネル付LEDで、「TOKYO2020」を模したイルミネーションを設置し、再生可能エネルギーについて学習しました。

※（3）は7-1-1東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組みに再掲

4 環境施策の推進

1 圃 生物多様性の保全【計画】（環境費）

環境課 17百万円

将来にわたって生物多様性が良好に保全されるよう、7つの河川に囲まれた区の特徴を活かした「生物多様性かつしか戦略」に基づき、生物多様性を保全し、生態系を再生・創出する取り組みや環境学習等による普及啓発を進めました。

(1) 水辺のふれあいルーム運営

水元小合溜の歴史やその周辺の自然環境の情報提供を行うとともに、環境講座や展示などを通じて環境保全の啓発を行いました。

(2) 自然環境レポーター事業

区民ボランティアとして区が認定した自然環境レポーターが、区内に生息する身近な生きものの状況や暮らしの中の生活環境などを調査し、結果を区が公表することで、生物多様性の保全への意識啓発を図るとともに、率先して環境問題に取り組む人材を育てました。

(3) 自然環境保全団体への支援

区内を中心に1年以上活動している団体に対し、環境保全に関する調査・研究活動、成果発表及び区民を対象とした啓発事業に係る経費の一部を助成しました。

助成団体 2団体

(4) 自然環境調査の実施

自然環境レポーターによるモニタリング調査に加え、専門業者による区内の池・水路などの水辺やその周辺の自然環境調査を実施することにより、戦略で定めた施策の効果を評価する際の資料としました。

(5) 葛飾区生物多様性推進協議会の運営

区民・地域団体・事業者・区の協働と参画により、生物多様性の保全活動を推進していくため、「葛飾区生物多様性推進協議会」の活動を通じ、地域における自然環境活動の取り組みを広げるとともに、自主的に先導できる担い手の育成を図りました。

(6) 自然環境学習の推進

①自然環境学習講座

河川の水質調査体験や校庭などで生きものを観察するなどの「自然環境学習出前講座」、区内の生きものなどの観察を行う「自然観察会」を実施しました。

ア) 自然環境学習出前講座 小学校19校、学童保育クラブ1か所、
区内イベント1か所

イ) 自然観察会 「カンタン」と秋に鳴く虫を聴く会 2回、
親子自然観察会 1回

②かつしかっ子探検隊

子どもたちが、体験活動を通して直接自然にふれることで、地域のよりよい環境を創造する意識を育みました。

体験活動 5回

③小さな水田の普及啓発

生きものが生育・生息しやすい環境を広げるため、プランターなどで行える「小さな水田」を普及啓発するためのパンフレット及び種もみを配布しました。

2 国 地球温暖化対策の推進【新規】（環境費）

環境課 0.4百万円

「葛飾区地球温暖化対策実行計画」（区域施策編）に基づき、区民・事業者・区等すべての主体が連携し、葛飾区全域の温室効果ガスの排出抑制に向けて、総合的・計画的な対策を講じて、具体的な取組みを進めます。

30年度は、区民や事業者が取り組みやすく、かつ効果の高い行動を「かつしか版COOL CHOICE」としてイベント等で普及を図りました。

3 国 区民の省エネ行動の推進【計画】（環境費）

環境課 77百万円

区民による環境に配慮した行動を推進するため、エコライフ推進事業やかつしかエコ助成による支援（省エネルギー設備等の導入費助成）などを実施しました。

（1）エコライフ推進事業

省エネ・省資源等に取り組むことを宣言した区民の中で、取組みと成果を報告した家庭を認定することで、日常の省エネ行動や省エネ機器・設備の導入など環境に配慮したライフスタイルへの転換を推奨・支援しました。

さらに、エコチャレンジの参加者の中で、優れた成果があった家庭についてはエコマスターとして認定しました。

また、省エネナビの貸出しを行い、エネルギー使用量の「見える化」により、省エネを図りました。

（2）省エネ・環境学習教室の開催

実施回数 4回

（3）緑のカーテン普及啓発

小・中学校や区施設に設置している緑のカーテンを維持するとともに、身近な省エネ・緑化活動として区民・事業者への普及を図りました。

（4）かつしかエコ助成による支援

①家庭用燃料電池 149件

②遮熱塗装等断熱改修費助成

個人住宅用 234件、集合住宅用 12件

③個人住宅用直管型高効率蛍光灯・直管型LED照明器具設置費等助成 4件

④集合住宅用高効率蛍光灯・LED照明器具設置費等助成（分譲及び賃貸マンションの共用部分） 12件

⑤蓄電池設置費助成

個人住宅用 118件

⑥電気自動車等購入費助成 27件

4 国 事業者の環境経営推進【計画】（環境費）

環境課 16百万円

事業者による環境に配慮した企業活動を推進するため、環境経営関連の各種認証・認定取得の支援や事業者へのエコチャレンジなどの認定制度、かつしかエコ助成による支援（省エネルギー設備等の導入費助成）を実施しました。

（1）環境経営認証取得費助成

①エコアクション21認証取得・更新費助成 7件

②グリーン経営認証取得・更新費助成 2件

(2) 事業所における環境行動の推進

省エネ・省資源等に取り組むことを宣言した事業所の中で、取組みと成果を報告した事業所のエコチャレンジ・エコマスター認定制度を周知し、日常の省エネ行動や省エネ機器・設備の導入など環境に配慮した事業活動への転換を推奨・支援しました。

また、省エネナビの貸出しを周知し、エネルギー使用量の「見える化」により、省エネを図りました。

(3) かつしかエコ助成による支援

①省エネルギー設備導入費助成

省エネ型小規模燃焼機器 2件、空調設備 19件

②高効率蛍光灯・LED照明器具設置費等助成 19件

③遮熱塗装等断熱改修費助成 8件

④蓄電池設置費助成 1件

⑤電気自動車等購入費助成 3件

5 区環境行動推進【計画】（環境費・福祉費・都市整備費ほか）

環境課ほか 298百万円

区内最大規模の事業者として、省エネ・節電対策等に率先して取り組むなど、環境に配慮した行動を推進します。

30年度は、新たに燃料電池自動車を導入するとともに、引き続きエネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）上の削減目標を達成するために、29年度に策定した中長期計画に基づく施設整備計画を効率的に実施し、「葛飾区環境配慮指針」を適切に運用しながらエネルギー使用量のさらなる低減を図りました。

主な事業内容

空調機の高効率化（鎌倉図書館、東立石地区センターほか）

蛍光灯の高効率化（鎌倉図書館、渋江公園・上千葉公園テニスコートほか）

※空調機の高効率化経費は6-3-1計画的・予防的修繕の推進に一部別途計上、蛍光灯の高効率化経費は6-3-1計画的・予防的修繕の推進及び2-9-6スポーツ施設の利用しやすい環境整備に一部別途計上

6 かつしかルール等推進事業【計画】（環境費）

リサイクル清掃課 3.9百万円

区民・事業者・区の三者で構成する「かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会」を牽引役として、三者が協働してごみの減量や3Rを推進するための体制を作り、ごみの発生抑制に向けた区民や事業者の主体的な行動を促進しました。

具体的な取組みとして、「かつしかルール（毎年協議会で設定する、ごみ減量やリサイクルのための重点的な取組み）」の「生ごみの減量」と「雑紙を徹底して分別し、資源にする」を様々な機会を通じて発信しました。30年度は、食品ロス削減PRチラシの全戸配布をしました。

(1) フードドライブ運動の推進

食品ロス削減に向け、地域団体等が家庭で余っている食品を社会福祉施設等に寄付するフードドライブ運動を自主的に取り組めるよう、引き続き支援を行いました。

(2) 季節ごとの食べ切り・使い切りメニュー事業

家庭から排出される食べ残しや調理時に捨てられてしまう野菜の切れ端などによる生ごみを減量するため、東京聖栄大学と協働して、食べ切り・使い切りメニューを作成し、広く区民に周知しました。

(3) 雑紙分別の普及啓発

紙類の資源化をさらに推進するため、30年度は雑紙回収袋をイベント等で配布しました。

(4) レジ袋の削減

レジ袋の削減のため、マイバッグ利用スタンプカード事業を3か所の商店街で実施しました。

(5) かつしか食べきり協力店事業

食べ残しによる食品ロスを削減するため、お客様に食べ切りの呼びかけ等を行っている区内店舗を「かつしか食べきり協力店」として登録し、資源とごみの収集カレンダーや区のホームページ等で発信しました。

30年度は、かつしか食べきり協力店に三角柱POPを配付し、卓上等に設置してもらい、食品ロスの減量の啓発にも取り組みました。

7 圃集積所美化等排出指導【計画】（環境費）

清掃事務所 17百万円

区内全域の集積所周辺の改善指導を引き続き実施し、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図りました。

8 圃ポイ捨て防止等環境美化活動【拡大】（総務費）

地域振興課 55百万円

喫煙禁止区域の設定等を盛り込んだ条例改正に伴い、パトロールやキャンペーン等の啓発事業を強化し、喫煙マナーの向上を図るとともに、喫煙禁止区域内への指定喫煙場所の設置及び維持管理を行いました。

(1) 喫煙禁止区域の設定

①改正条例施行日 平成30年4月1日

②禁止区域の告示 平成30年5月1日

③告示の適用 平成30年8月1日

④禁止区域 JR4駅（新小岩、金町、亀有、綾瀬）周辺

(2) 指定喫煙場所 新小岩駅北口、金町駅北口・南口、亀有駅南口 計4か所

6 効果的・効率的な区民サービス提供への取組み

1 協働を推し進める環境づくり（11の重要プロジェクト）

1 園 協働を推し進める環境づくり（総務費）

協働推進担当課 6百万円

区民に区の現状や取組みについて知っていただくための職員出前講座、協働ホームページの運営、川柳コンクール、協働の取組みを紹介する協働事例集の作成や協働DVDの制作などを引き続き実施しました。

2 総合庁舎の整備（11の重要プロジェクト）

1 園 総合庁舎の整備（総務費）

総合庁舎整備担当課 16百万円

総合庁舎は、老朽化や狭あい化が進み、また、災害対策拠点としての耐震性能の不足、バリアフリー対応など、多くの課題を抱えています。そのため、将来の整備に向けて検討を進めています。

30年度は、再開発事業による施設建築物の実施設計に向け、「葛飾区新庁舎庁内基本プラン（中間報告）」をとりまとめました。また、業務効率化を目的とした、執務スペース等の運用シミュレーションを行いました。

3 公共施設の効果的・効率的な活用（11の重要プロジェクト）

1 園 計画的・予防的修繕の推進（総務費・産業経済費・教育費）

施設管理課ほか 2,568百万円

公共施設の更新費用に係る財政負担の平準化を図るため、計画的・予防的な修繕を実施し、既存施設の長寿命化を進めています。

30年度は、葛飾区有建築物保全工事計画に基づき、設計や工事を実施するとともに、継続して行う施設の日常点検や各種調査の結果を活かし、効果的・効率的な工事に取り組みました。

（1）小学校13校

本田小学校、二上小学校、小松南小学校、新宿小学校、住吉小学校、水元小学校、青戸小学校、綾南小学校、原田小学校、飯塚小学校、東水元小学校、よつぎ小学校、こすぎ小学校

（2）中学校 8校

中川中学校、堀切中学校、大道中学校、四ツ木中学校、亀有中学校、一之台中学校、青戸中学校、青葉中学校

（3）学校以外9施設

南綾瀬地区センター（別館）、東立石地区センター、新宿地区センター、水元地区センター、東四つ木工場ビル、総合教育センター、日光林間学園、水元図書館、鎌倉図書館

4 「葛飾区夢と誇りあるふるさと葛飾基金」の活用

1 圃「葛飾区夢と誇りあるふるさと葛飾基金」の活用（福祉費）

福祉管理課・障害者施設課 9百万円

22年度に「葛飾区夢と誇りあるふるさと葛飾基金」を創設し、これまでにたくさんの寄附が寄せられています。寄附された方々の「ふるさと葛飾」への思いを実現するため、当該基金を活用した事業を実施しました。

福祉業務用車両の購入費助成

障害者（児）通所施設や認知症高齢者グループホームで福祉業務に使用する車両の購入に係る経費の一部を補助し、利用者の送迎や自主生産品の販売などの活動を支援しました。
補助件数 5件

2 圃「ふるさと納税返礼品」の導入【新規】（総務費）

協働推進担当課ほか 12百万円

区外から本区へふるさと納税された方に対し、区でつくられたモノや体験できるコトを返礼品とすることで、区の魅力を直接感じ取ってもらうとともに、地域産業の活性化や観光客の誘致を図り、新たな活力を創出する取組みとして「ふるさと納税返礼品」を導入しました。

開始時期 平成30年7月

5 リリオ亀有リノベーションプロジェクト

1 圃リリオ亀有リノベーションプロジェクト【新規】（総務費・教育費）

政策企画課・地域振興課・中央図書館 88百万円

リリオ亀有リリオ館及び周辺地域の活性化のため、都市再生機構、民間事業者、区の公民連携によるリリオ亀有リリオ館7階のリノベーションを行いました。

行政サービスとして、亀有地区センター会議室及び図書サービスカウンターを新設するとともに、子育て支援等を目的に民間事業者が開設した「絵と言葉のライブラリー ミッカ」の運営を支援しました。

※図書サービスカウンターの経費は2-11-1図書返却ポスト及び図書サービスカウンターの設置に一部別途計上

7 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ 向けた取組み

1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組み

1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた取組み

(総務費・環境費・産業経済費・教育費) (一部再掲)

政策企画課・文化国際課・観光課・環境課・清掃事務所・指導室・生涯スポーツ課

1,021百万円

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて気運醸成を図るとともに、国内外からの観光客を迎えるための取組み、多くの区民がスポーツに親しむ機会や環境の充実などに向けた取組みを進めています。

主な事業 キャンプ誘致活動・気運醸成事業の実施、公共サインの再構築、英語・中国語によるおもてなしガイド講座の実施、訪日外国人向け観光PR、花いっぱいでおもてなし、子どもたちによる太陽光発電イルミネーションの製作・展示、みんなのメダルプロジェクト(小型家電の拠点回収)、児童・生徒の体験的外国語活動の実施、中学生海外派遣の実施、地域英語教材の活用、こども体力向上プロジェクトの推進、トランポリン大会など各種スポーツ大会や教室の実施、障害者スポーツの推進(ボッチャ競技の普及等)、アスリート等指導員の派遣、(一社)葛飾区体育協会と協働したスポーツ教室・体験会の実施、スポーツ施設の利用しやすい環境整備、スポーツライミング施設の整備、葛飾区ゆかりのアスリート応援